別冊３②

新県立博物館（仮称）詳細設計〔展示〕最終報告

目次

1. 新博物館のめざす姿 —— 1
2. 展示の３つの基本 —— 2
3. 施設全体の構成 —— 3
4. 交流創造エリア —— 4
5. 展示エリア —— 15
6. 博物館全体に広がる空間演出 —— 27
7. 館内にとどまらない博物館活動 —— 28
8. 工程表・積算表 —— 30

新博物館のめざす姿

使命

○ 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす
○ 学びと交流を通じて人づくりに貢献する
○ 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

活動理念

「ともに考え、活動し、成長する博物館」

すべての博物館活動を県民・利用者のみなさんに開き、ともに考え、活動するなかで、成長する博物館づくりを展開します。

博物館活動
- 調査研究活動
- 収集保存活動
- 活用発信活動

テーマ

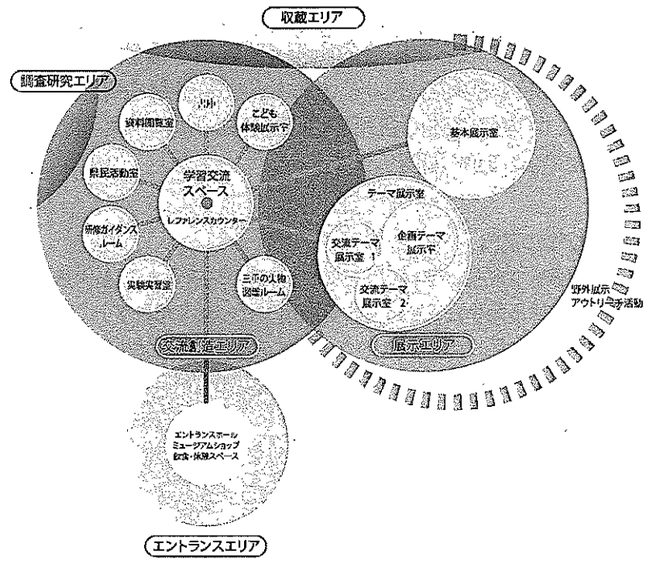
三重がもつ「多様性の力」

三重の特色は、日本の縮図ともいわれる多様で豊かな自然と、東西文化の結節点としての盛んな交流により生みだされた多様な歴史・文化をもつことにあります。
新博物館では、三重の特色である「多様性」を県民・利用者のみなさんとともに探求し、「多様な資産」を保全・継承し、活用することにより、地域への誇りと愛着を育み、地域に活力をもたらし、新たな文化を創造する力、今をつくり、未来を切り拓く力を生みだしていきます。

展示設計の範囲

「展示室」だけでなく「活動・空間」へと対象を広げた設計

新博物館では、すべての博物館活動を県民・利用者のみなさんに開き、ともに三重の特色である多様で豊かな自然と歴史・文化を探求し、守り伝え、そして生かし、力にしていくための博物館活動を展開し、未来につながる新たな知を創造・発信することをめざしています。
このような博物館を実現していくため、従来型の「展示室」設計から、県民・利用者のみなさんが、博物館活動を主体的・積極的に展開できる場の創出を目的とした「活動・空間」へと対象を広げた設計としました。



「活動・空間」設計をめざしたことから、対象範囲は、基本展示など常設的な展示室だけでなく、博物館の活用発信活動を展開する交流創造エリアと展示エリア、さらにエントランスエリア、館外などでみなさんに利用いただく空間も含めた範囲を対象としました。

（新県立博物館の施設構成と対象範囲）　◎が対象範囲
◎エントランスエリア（エントランスホール、ミュージアムショップなど）
◎交流創造エリア（学習交流スペース、こども体験展示室、資料閲覧室など）
◎展示エリア（基本展示室、企画テーマ展示室、交流テーマ展示室１・２）
・収蔵エリア（分野別収蔵庫）
・調査研究エリア（標本製作室、資料整理室など）
・管理エリア（事務室、救護室など）

※以上のほか、館外の「ミュージアムフィールド」やアウトリーチ活動（移動展示や出前授業）も対象としました。

展示の3つの基本

新博物館のめざす姿を具体化するにあたって、次の3つを基本において展示設計を行いました。

1. 三重の自然と歴史・文化のことがわかる展示

子どもから大人まで誰もが、わくわく・どきどき感を持って楽しむことができる展示とします。また、新しい発見や魅力に満ち、親しみやすく理解しやすい展示としていきます。さらに、総合博物館の特性を生かし、自然や歴史などの各分野や、これらを総合的に捉える展示を展開することで、三重の多様性や三重の持つ多彩な魅力をさまざまな視点から紹介します。
あわせて、博物館内外の各所で、三重を知り、学び、探求できるよう、さまざまな演出やしかけを配置します。

ex) 展示エリアでの展開

多様で豊かな三重の自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と、複数のテーマによる大小さまざまな展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」の2つの展示を展開します。これらは、互いに連動、連携しながら、重層的かつ、変化に富んだ展開とし、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

2. みんなで一緒につくっていく展示

県民・利用者のみなさんとともに行う調査研究の成果の展示をはじめ、みなさんから寄せられる地域の情報を展示などで発信していくなど、双方向の交流型の活動を展開します。また、新たな出会いや交流の場となる展示活動を行っていきます。そのため、誰もが気軽に情報の受発信を行うことができ、誰もが博物館資料を閲覧・活用できる環境を整備します。

ex) 基本展示室での展開

「調べる・参加する展示」として、県民・利用者のみなさんから集まる情報などを活用できるしくみを整備します。

3. 子どもたちを育む展示

こども体験展示室をはじめとする、展示室や交流創造エリアなどの館内だけでなく、野外のミュージアムフィールドも含めた敷地全体を活用して、子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、知ること、考えることの楽しさを知り、博物館や自分たちが住む地域に対して興味・関心がもてるようにします。
あわせて、学校利用への対応など、子どもたちの学習に配慮した展示とします。

ex) こども体験展示室での展開

のぞいたり、引き出したり、くぐったり、さわったりと、子どもたちの好奇心や探求心を育む遊びの要素を多く取り入れた体験型の展示を部屋全体に用意し、子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して博物館の楽しさを知ることができる部屋とします。あわせて、保護者とともに、小さい子どもたちも安全に遊べる未就学児向けのコーナーも設置します。

県民・利用者のみなさんとともに、三重が持つ「多様性の力」を探求し、新たな知を創造・発信する博物館

新博物館のめざす姿を具体化する設計の視点から、3階建の建物のうち、収蔵エリアを1・2階に、エントランスエリアを2階に、活動発信活動を展開する交流創造エリアと展示エリアを2・3階に配置しています。
みなさんに、気軽にご利用いただきやすい空間となるよう、わかりやすい施設構成とします。

■県民のみなさんに開かれた明るい「エントランスエリア」

エントランスエリアは、建物の2階に設けています。メインエントランス（出入口）だけでなく、館東側のミュージアムフィールド側からの出入口も設置するなど、誰もが気軽に立ち寄れる空間とします。エリア内には、三重の魅力と楽しさにあふれた空間としての飲食・休憩スペースやミュージアムショップなどを配置するとともに、3階の交流創造エリアや展示エリアなどへの期待を高める効果的な演出とします。

■明るく開放的な「交流創造エリア」

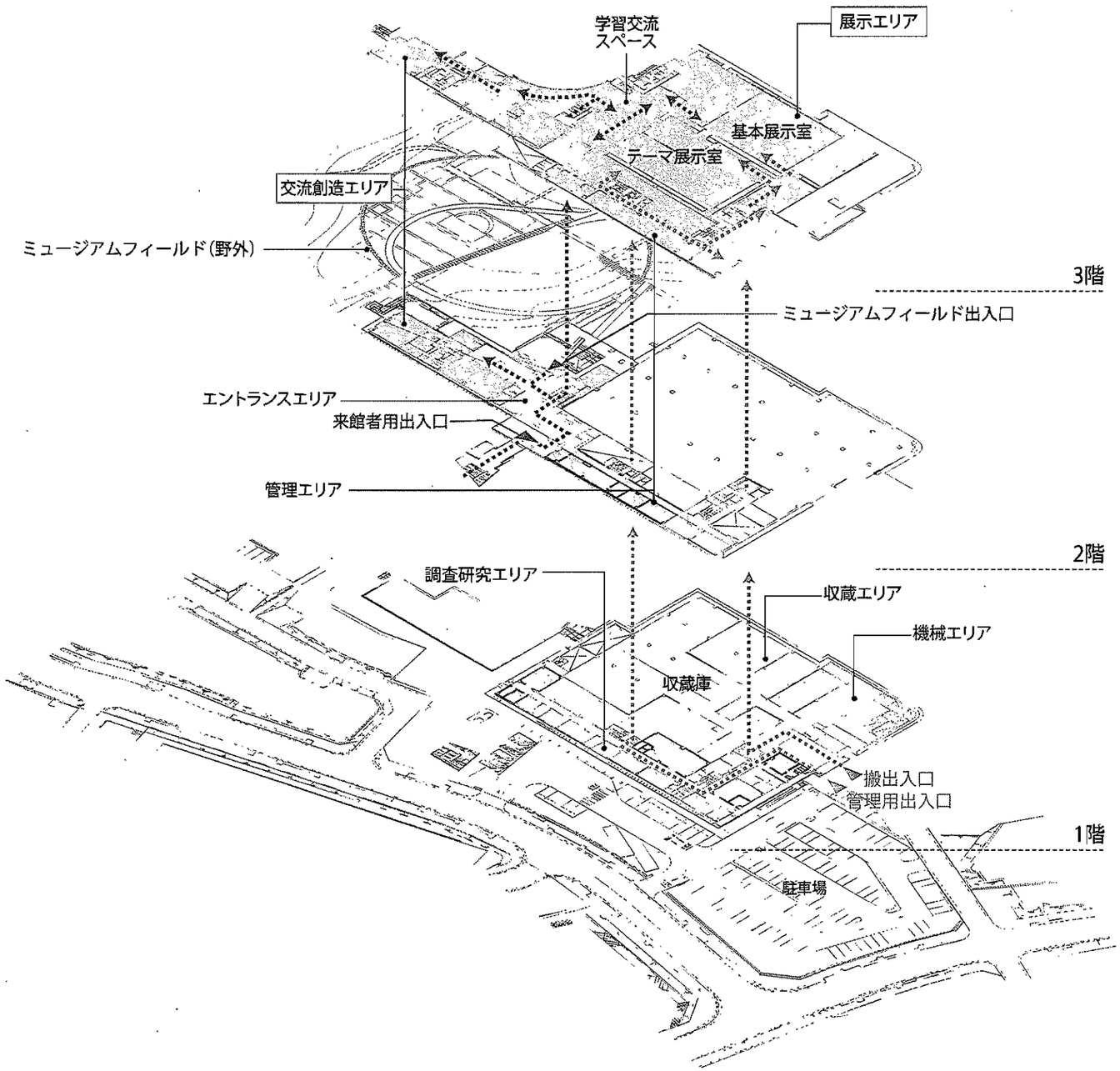
交流創造エリアは、新博物館の特色である「交流創造」を積極的に展開するための中核的役割の場です。活動の中心となる学習交流スペースをはじめ、こども体験展示室、資料閲覧室などの諸室の機能連携により、三重の自然と歴史・文化に関する県民・利用者のみなさんの多様な興味や関心、目的に応える活動を展開する、明るく開放的な空間とします。

■交流創造エリアと相乗効果を高める「展示エリア」

展示エリアは、展示資料の動線や保存環境に配慮した位置に配置するとともに、交流創造エリアと連動することで、博物館活動の幅を広げるなどの相乗効果を高めます。三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と、複数のテーマによる大小さまざまな展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」の2つの展示を展開することで、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

■外気の影響を受けにくい「収蔵エリア」

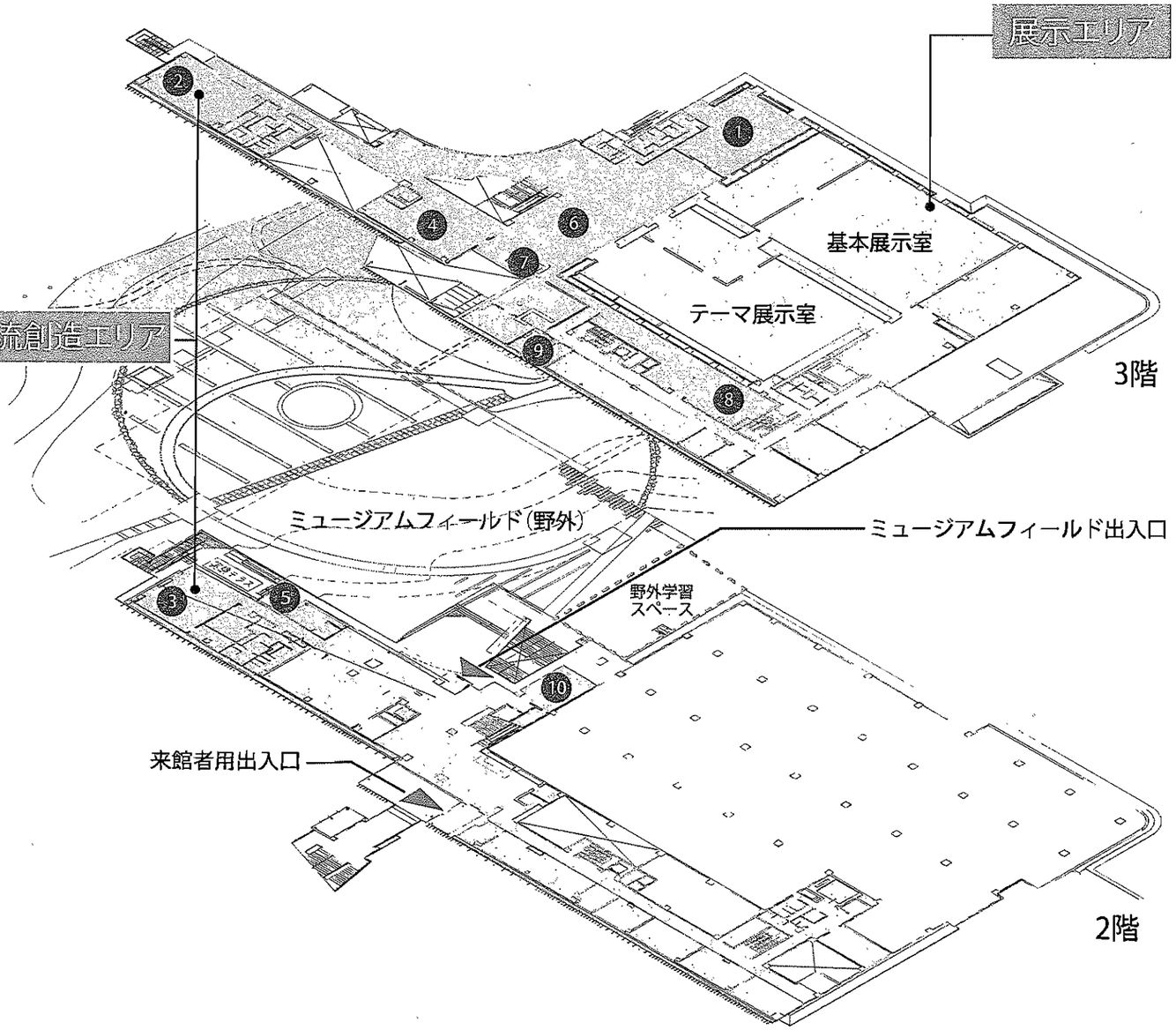
大切な資料を安全に保存していくため、収蔵エリアは、外気の影響を受けにくい1・2階に配置しています。資料の種類、内容に合わせて保存環境の異なる収蔵庫を設け、資料の保存、管理、研究に適した施設とします。



※エリア名称、室名は現段階では仮称とし、開館までの間に親しみやすく、わかりやすい名称としていきます。

多彩な活動と交流が生まれる博物館の中核となる交流創造エリア

県民・利用者のみなさんによる博物館活用の基点となる学習交流スペースを中心とした諸室の機能連携により、三重の自然と歴史・文化に関する県民・利用者のみなさんの多様な興味や関心、目的に応えるとともに、活動と交流の輪を館内外に広げていきます。



1 こども体験展示室(P.8-9)

博物館の楽しさを知ることができる体験型の展示により、子どもたちに博物館を好きになってもらうための部屋

2 研修・ガイダンスルーム(P.14)

講座や研修会、団体・学校向けのガイダンス(説明・案内)を行うための部屋

3 実験実習室(P.14)

さまざまなワークショップや実験・実習型の講座を開催するための部屋

4 三重の実物図鑑ルーム(P.10-11)

三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を実物図鑑的に展示する部屋

5 オオサンショウウオ飼育水槽

特別天然記念物であるオオサンショウウオを、最適の環境下で飼育する水槽

6 学習交流スペース(P.5-7)

交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペース。交流創造エリアの他の諸室や展示エリアとも機能連携しながら、三重の自然と歴史・文化に関する興味や関心、目的に応じた県民・利用者のみなさんの学習や研究、グループ・団体等の活動と交流が行われる場所

7 レファレンスカウンター

学習交流スペースの窓口として、三重の自然と歴史・文化、県の歴史的公文書、県内外の博物館・公文書館に関する問い合わせや相談など、県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口

8 書庫

県民・利用者のみなさんが閲覧利用できる約８万冊の書籍(三重の自然と歴史・文化および県内外の博物館・公文書館に関する書籍類)を収蔵する部屋

9 資料閲覧室(P.12-13)

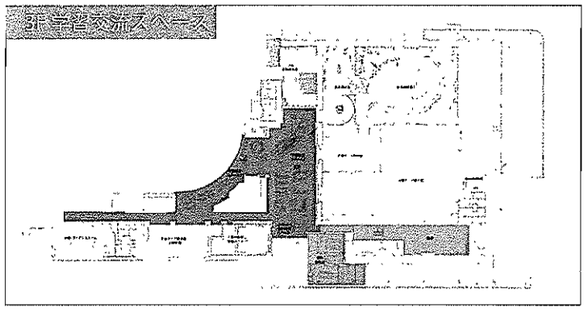
新博物館に収蔵する三重の自然と歴史・文化に関する資料(県の歴史的公文書も含む)を閲覧できる部屋

10 県民活動室(P.14)

博物館で活動・交流する県民・利用者のみなさん、グループ・団体等が活用できる部屋

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

学習や研究、グループ・団体等の多様な活動と交流が展開する空間



ミュージアムフィールド側に開かれた明るい空間とします。交流創造エリアの他の諸室を結ぶ中心的な役割を果たし、展示エリアとも連動させます。目的に応じたコーナーが有機的につながる配置とします。三重の自然と歴史・文化等に関する問い合わせや相談、情報や書籍の閲覧、個人やグループによる活動や交流が柔軟に展開できる空間とします。博物館資料に親しめるような展示コーナーも設けます。

■ゾーニングの考え方

■レファレンスカウンター
県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口。学習交流スペースの核となる場として、資料閲覧室や開架書籍・情報コーナーと隣接するとともに、学芸員室と近接した配置とすることで、臨機応変に対応します。

■資料相談コーナー
レファレンスカウンターの横、三重の実物図鑑ルームや資料閲覧室・書庫とも近接することで、連動して県民・利用者のみなさんの資料相談などに対応します。

■資料閲覧室
レファレンスカウンターと近接することで、各種資料の閲覧に柔軟に対応できるとともに、収蔵庫からの資料がスムーズに搬出入できるよう、管理エリアと隣接した配置としています。

■開架書架・情報コーナー
三重の自然と歴史・文化に関する書籍や、情報を利用するみなさんにとって、より効果的な広がりとなるよう、レファレンスカウンターや資料相談コーナーと隣接した配置としています。

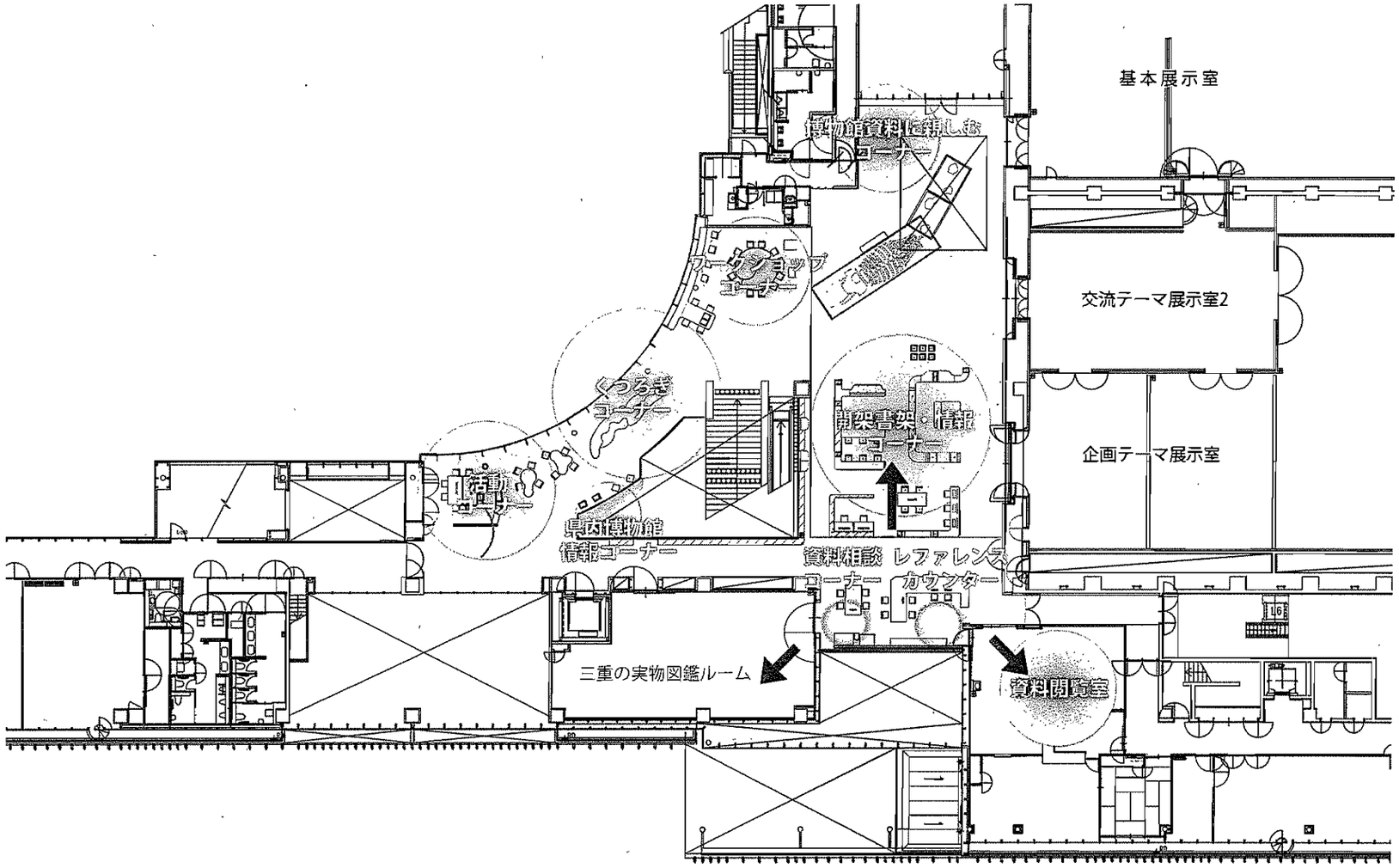
■博物館資料に親しむコーナー
交流創造エリアに博物館資料を展示することで、館全体で三重の魅力と楽しさを発信することとします。

■ワークショップコーナー
3階への階段を登ってすぐの場所にワークショップコーナーを展開することで、訪れた県民・利用者のみなさんが、気軽に参加できる場とします。

■くつろぎコーナー
ミュージアムフィールド側に面した明るい空間に配置し、一人でもゆったりとくつろげるコーナーとします。

■活動コーナー
博物館で活動するさまざまなグループのミーティングや活動の発表などに活用できるコーナー。活動内容などの各種情報の掲示も可能な配置とします。

■県内博物館情報コーナー
県内博物館情報の受発信を積極的に展開し、県民・利用者のみなさんの興味・関心が県内博物館にも広がるよう、情報コーナーを配置します。

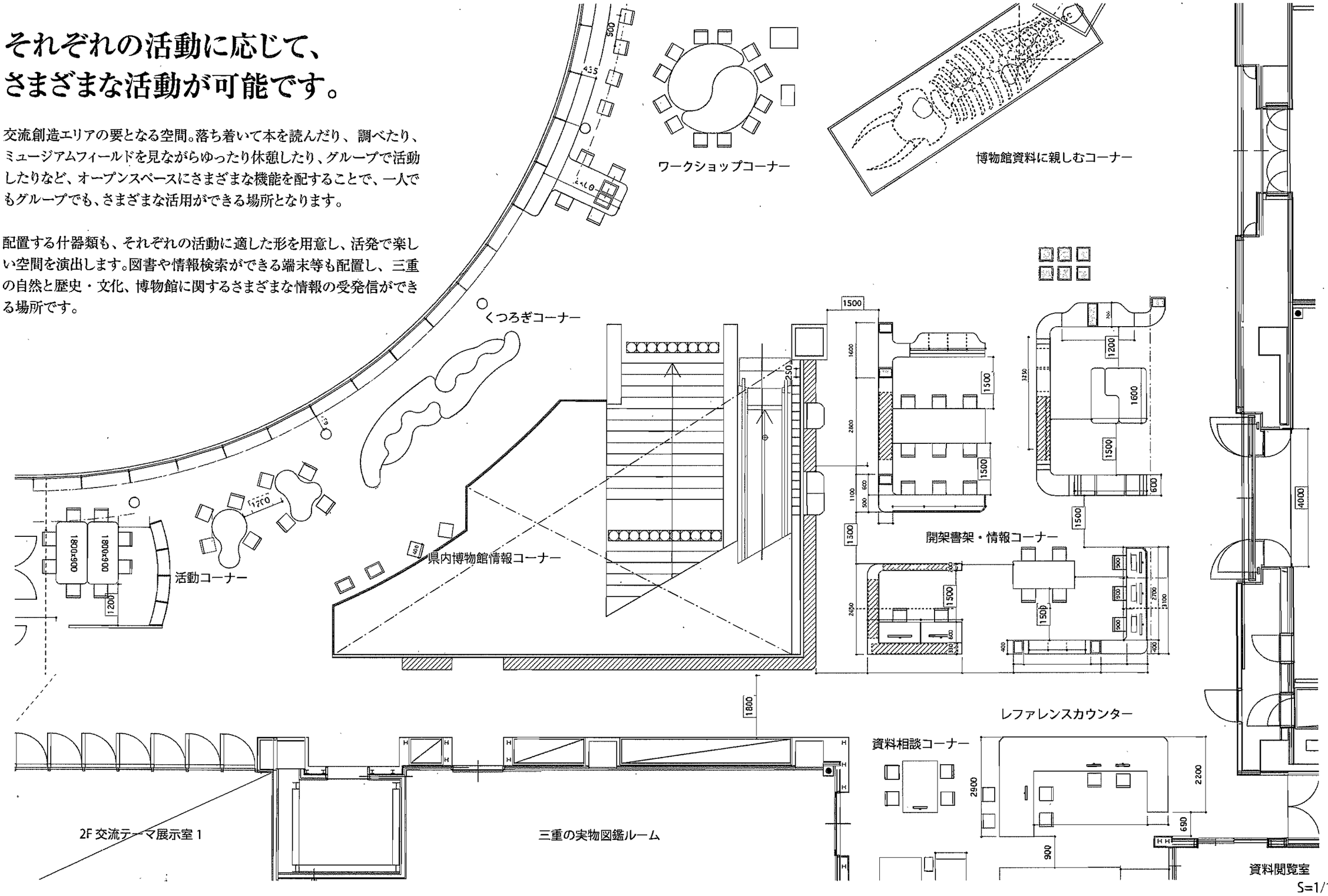


S=1/100

それぞれの活動に応じて、さまざまな活動が可能です。

交流創造エリアの要となる空間。落ち着いて本を読んだり、調べたり、ミュージアムフィールドを見ながらゆったり休憩したり、グループで活動したりなど、オープンスペースにさまざまな機能を配することで、一人でもグループでも、さまざまな活用ができる場所となります。

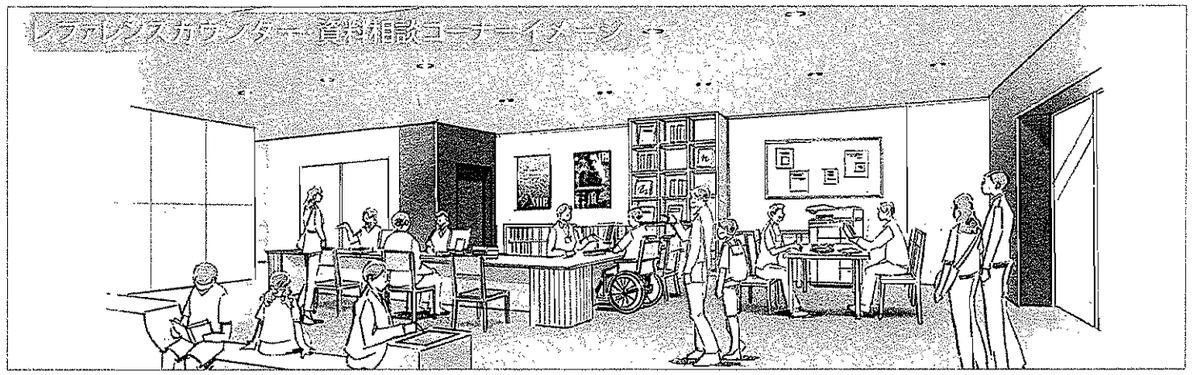
配置する什器類も、それぞれの活動に適した形を用意し、活発で楽しい空間を演出します。図書や情報検索ができる端末等も配置し、三重の自然と歴史・文化、博物館に関するさまざまな情報の受発信ができる場所です。



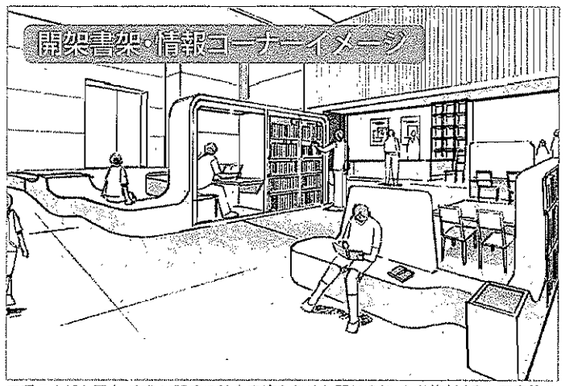
TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

三重の魅力や博物館の楽しさを伝える雰囲気にあふれた空間

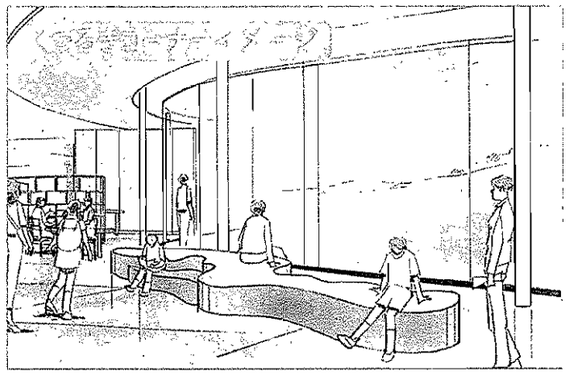
県民・利用者のみなさんが、活発に活動する交流創造エリアの中心となる学習交流スペース内では、各所に県産材や三重をイメージさせるデザインを施し、親しみやすく活気あふれた空間とします。



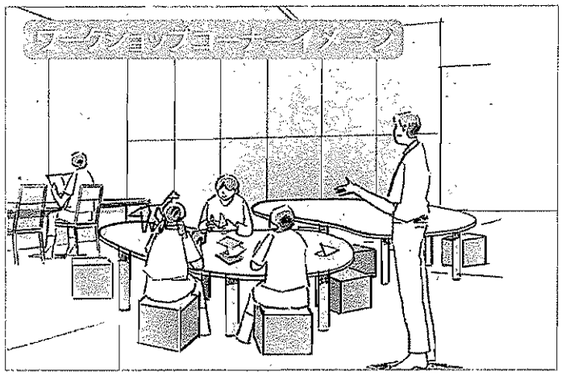
学習交流スペースの中心。三重の自然と歴史・文化、県の歴史的公文書、県内外の博物館・公文書館に関する問い合わせや相談など、県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口。三重の実物図録ルームや資料閲覧室と連動して、県民・利用者のみなさんの資料相談などに対応できるコーナー。



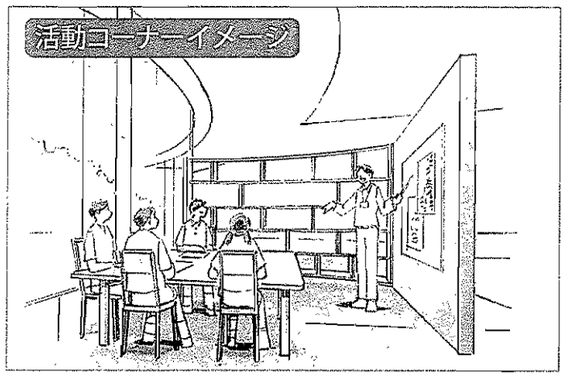
三重の自然と歴史・文化に関する基本書籍を収めた開架書架、収蔵資料（県の歴史的公文書も含む）のデータベース検索端末、三重の自然と歴史・文化に関する映像や情報を視聴できる端末などを設置し、学習や研究に活用できるコーナー。



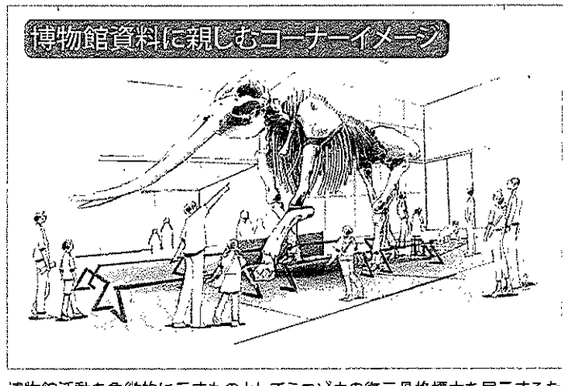
ゆったりとした椅子を配置し、本を読んだり、ミュージアムフィールドを眺めながらくつろいだりするコーナー。



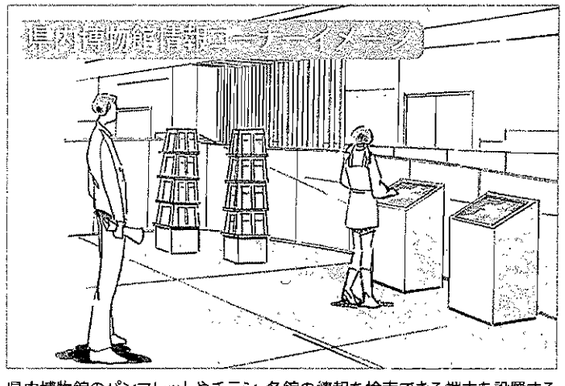
来館者が気軽に参加できる小規模のワークショップなどを開催するコーナー。



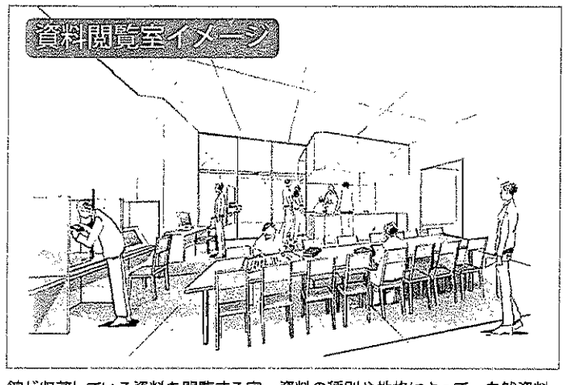
博物館で活動するさまざまなグループがミーティングを行ったり、活動発表などを行ったりするコーナー。



博物館活動を象徴的に示すものとしてミエゾウの復元骨格標本を展示するなど、三重の魅力や楽しさをあらわす博物館資料を展示するコーナー。



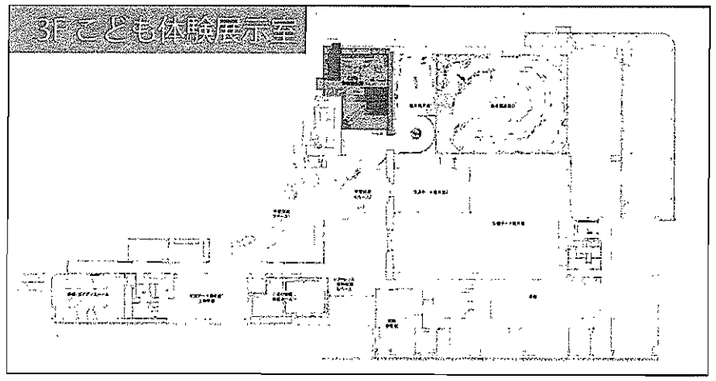
県内博物館のパンフレットやチラシ、各館の情報を検索できる端末を設置するなど、県内の博物館・資料館を利用するためのコーナー。



館が収蔵している資料を閲覧する室。資料の種別や性格によって、自然資料・民俗・考古資料等閲覧室、歴史的公文書・古文書等閲覧室、和室、特別閲覧室の４つの閲覧室を設置。

子どもたちが博物館を好きになるきっかけとなる展示室

ミュージアムフィールドが望める展示室。天井高を生かし、開放的な空間とします。訪れた子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、博物館の楽しさを知ることができる展示内容とします。



やってみる しらべる（調査・研究）

遊ぶ・楽しむを通して博物館資料への興味や不思議を体験し、探究心を広げるコーナーイメージ

ふしぎ?の森のフィールド
展示テーマごとに関連する展示内容や資料を五感に訴えるしかけで紹介し、子どもたちが興味をもつきっかけづくりをします。

だれの足跡?だれのうんち?
動物や昆虫など生き物のうんちや足跡などの痕跡を床や壁の一部も使って表現。何の生き物かを問いかけます。

くらべっこウォール
いろんな生き物たちと背比べ、体力比べ、能力比べができる壁面展示とします。

のこす（収集・保存）

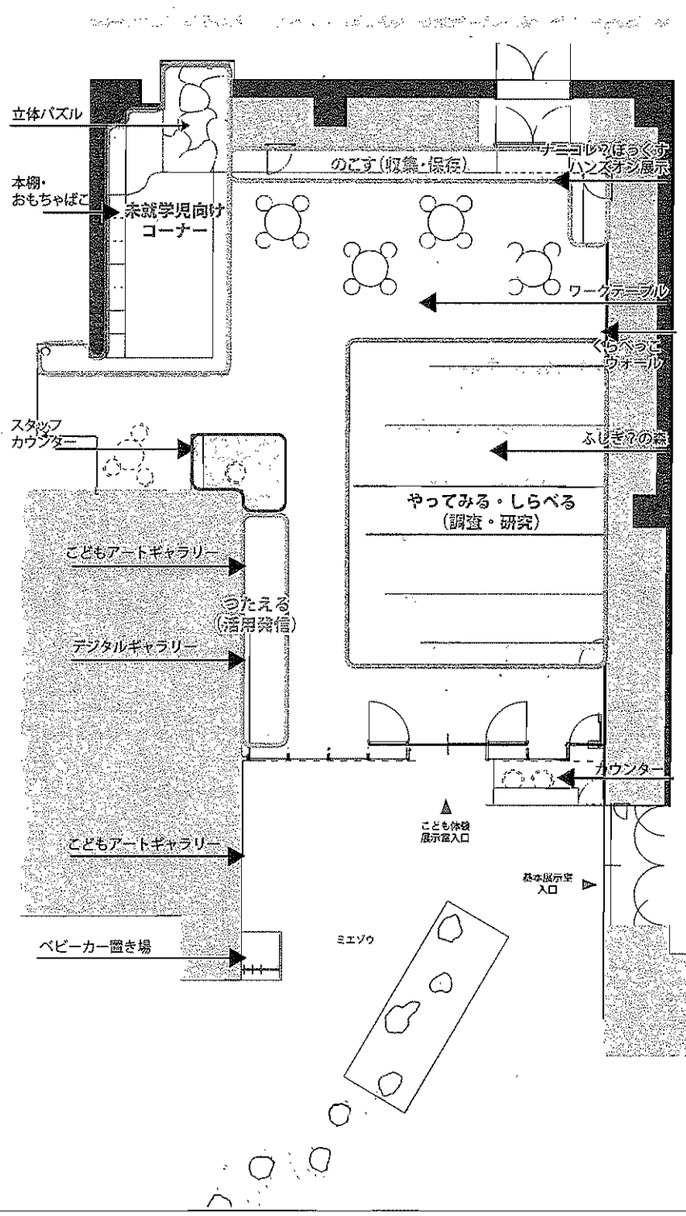
ハンズオン展示や活動を展開できるコーナーイメージ

なりきりファッションショー
動物の歩き方をまねてみたり、生き物になりきって技を体験してみるコーナーです。

ナニコレ?ぼっくす
動物や昆虫、植物などの自然史系、考古、歴史、民俗等の人文系、さらに博物館の保存活動に関する展示内容が詰まったボックス。年齢や興味によって使い分けることができ、内容も随時更新可能とします。

ワークテーブル
ナニコレ?ぼっくすや簡単な体験ができるスペース展開とします。

のこす、きろくする
保存する方法や、記録する技を体験します。



つたえる（活用発信）

体験の成果を展示したり発表できるコーナーイメージ

こどもアートギャラリー
こども体験展示室内でつくった作品などを展示とします。

デジタルギャラリー
さまざまな用途に活用できるタッチモニター。過去の子どもたちの感想を映したり、ワークショップなどにも利用できます。

未就学児向けコーナーイメージ

未就学児も安全に体験できるように、未就学児ゾーンを設ける。

立体パズル
やわらかい素材でできた大きな立体パズルで遊べるスペースです。
ソファのように腰掛けることもでき、保護者と一緒に絵本を読んだり遊んだりして、自由に過ごせます。

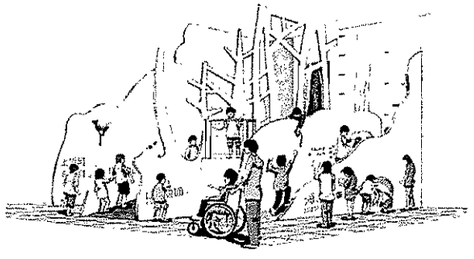
こども体験展示室 平面図

天井高を生かし展示室全体を活用する展示遊具を置き、登ったり、のぞいたり、引き出したりなど、子どもたちが手や身体を動かす遊びを通して、博物館の資料に興味を持つようなしかけを部屋全体にちりばめます。

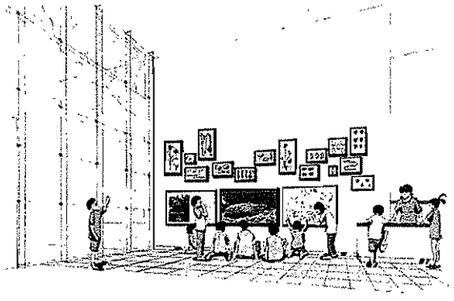
入り口デザインは、展示室内での子どもたちの楽しそうな活動が見え、ワクワク感を高めるものとします。展示構成は、徐々に情報深度が増す形とし、遊びの中から三重の多様で豊かな自然と、人と自然の関わり合いについて知ることができます。

また、柔らかい素材を用いた未就学児向けコーナーを設置し、小さい子どもたちも安全に遊べる場所を設置します。

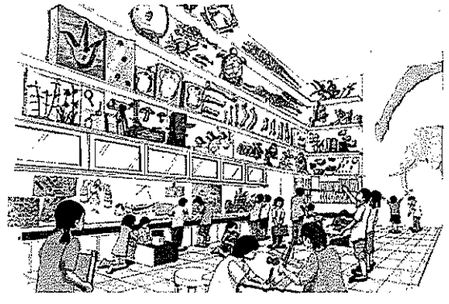
部屋全体を見渡せる位置にカウンターを設置し、スタッフが常駐することで、子どもたちの行動のサポートや安全性の確保などに配慮します。



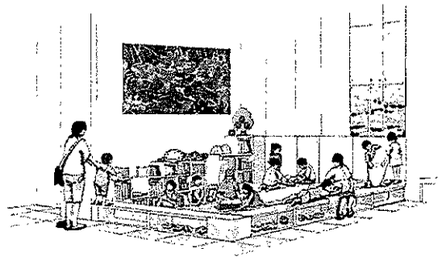
やってみる・しらべるコーナーのイメージ



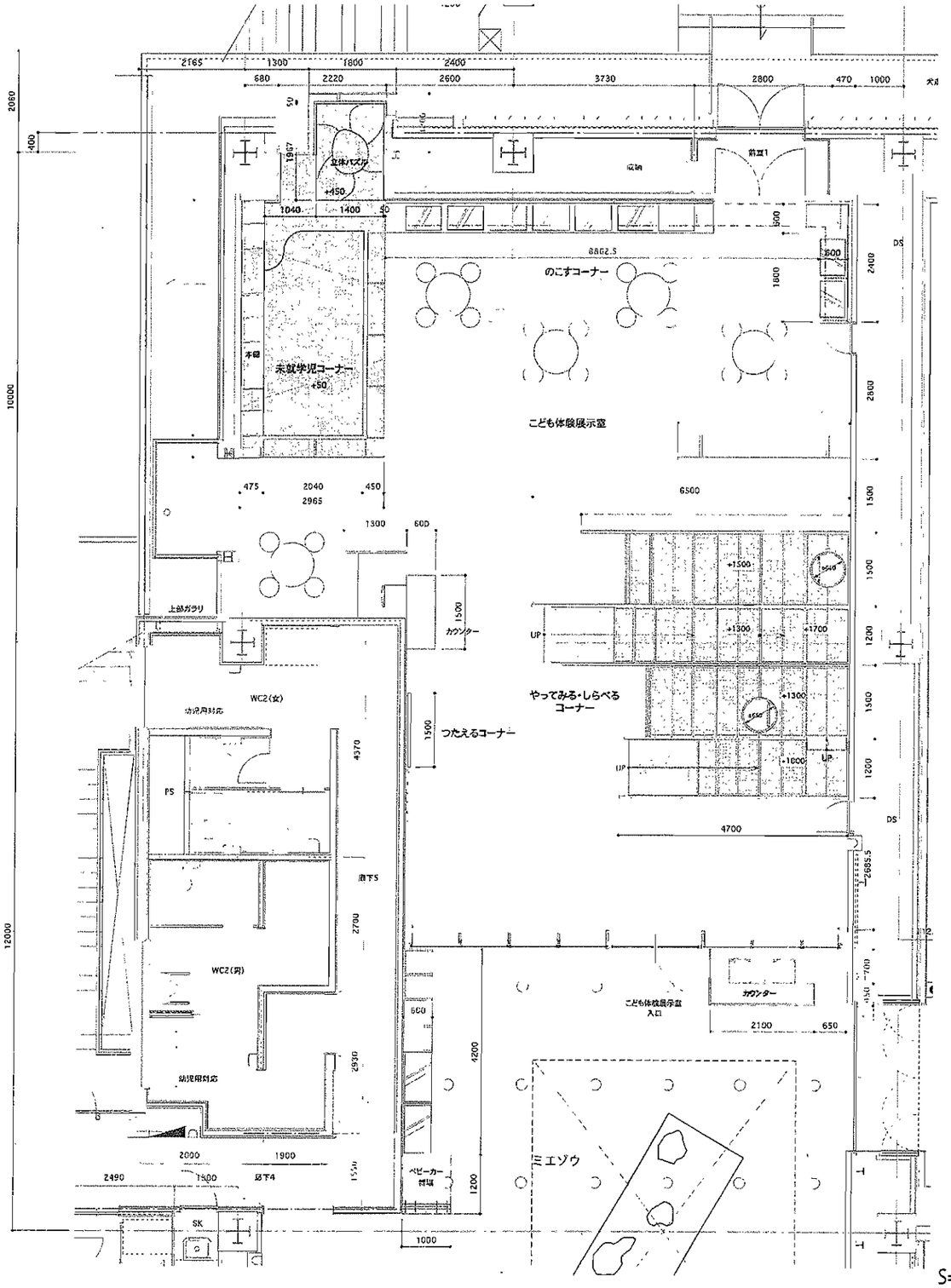
つたえるコーナーのイメージ



のこすコーナーのイメージ



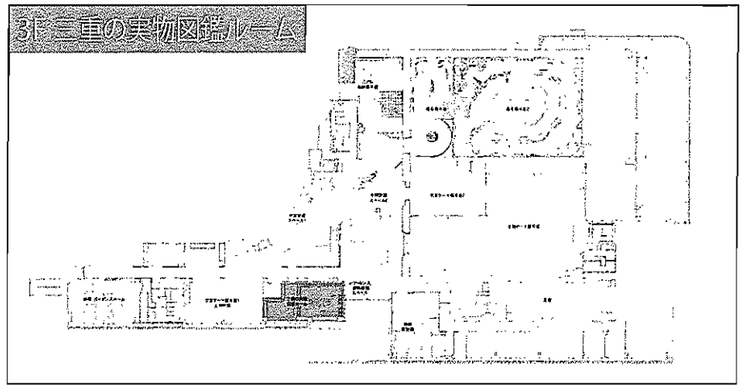
未就学児コーナーのイメージ



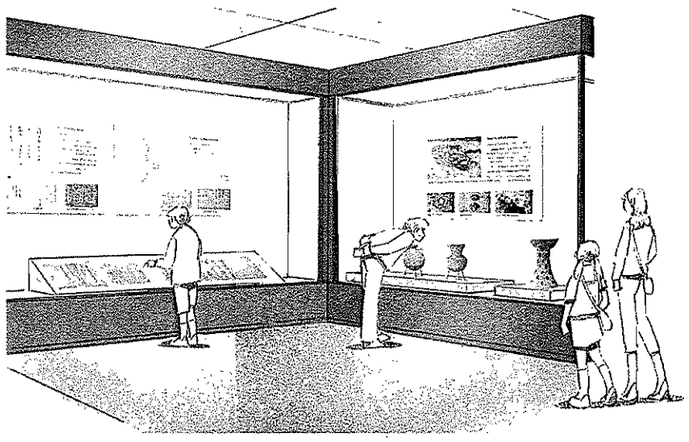
S=1/100

身近な三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を美しく、図鑑的に展示

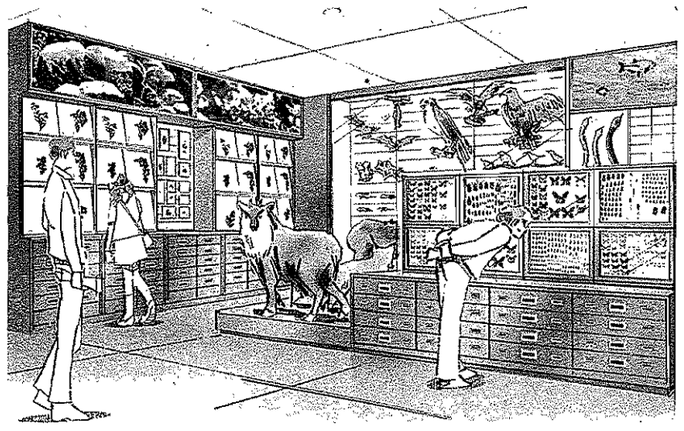
三重の歴史と文化に関する資料は、受け継がれてきた経緯とともに、資料の特徴を際立たせる美しい展示とします。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行い、限られたスペースで多くの資料を紹介します。
三重の自然に関する資料は、図鑑的分類による展示に加えて、映像やグラフィックなど、動植物の生態を伝える展示手法や、身近な自然の展示、さわれる展示など、資料に興味をもってもらえるような展示とします。

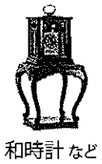


三重の歴史と文化に関する資料の展示イメージ



三重の自然に関する資料の展示イメージ

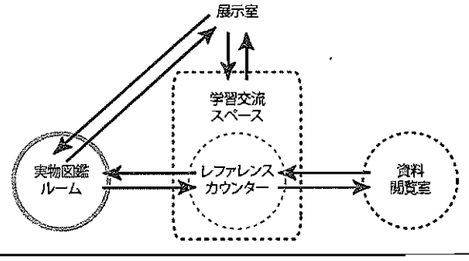


分類	出土したモノ	受け継がれたモノ	継承されるワザ	愛用されたモノ	受け継いでいくキロク
	出土した考古資料など	大切に保存されてきた美術工芸品など	伝え残すべき伝統工芸やその技など	日常的に使われてきた道具、民俗資料など	保存されてきた記録資料や新たに保存する歴史的公文書など
展示資料（例）					
	須恵器 器台 など	和時計 など	縞帳 など	蓄音機 など	地租改正反対一揆関係資料 など

■展示室の特徴

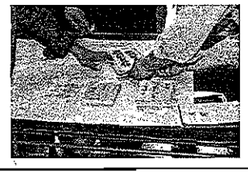
他の諸室や資料相談、閲覧との連動

実物図鑑ルームの見学にとどまらず、レファレンスカウンターでの資料相談に連動した利用や、資料閲覧・活用のきっかけとなる部屋とします。



岩石・鉱石・化石類	昆虫類	貝類・甲殻類・その他無脊椎動物	魚類・両生類・爬虫類	鳥類・哺乳類	植物・菌類	さわれる展示
花崗岩	ギフチョウ	セキトリハッキガイ	ドジョウ	カワセミ	サカキ	ニホンジカ
サメの歯 など	オニヤンマ など	クモヒトデ など	アマガエル ヤマカガシ など	ニホンリス ニホンイタチ など	ハラタケ など	ニホンザル など

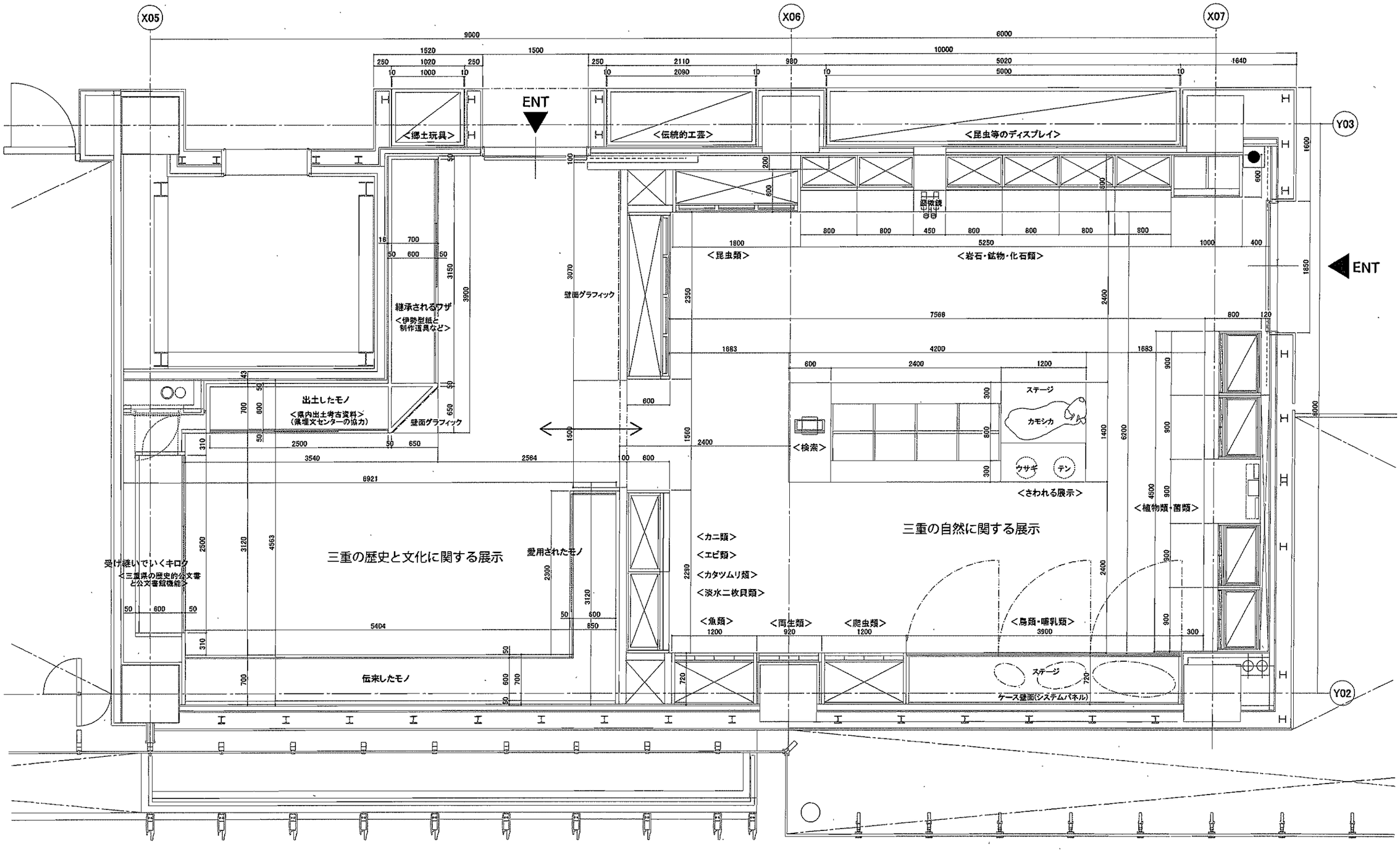
博物館資料の保存と継承の重要性を発信



三重の実物図鑑ルームの展示を通じて、博物館にはどのような資料が収蔵され、どのように保存されているかを紹介することで、県民・利用者のみなさんとの協力による地域の貴重な資料の保存、継承へとつなげます。

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

三重の実物図鑑ルーム 平面図

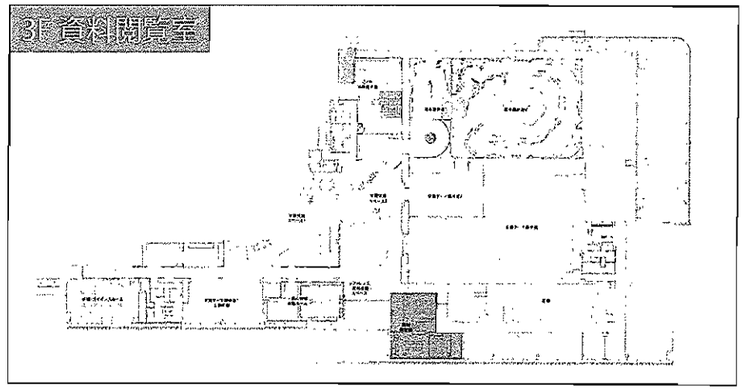


S=1/100

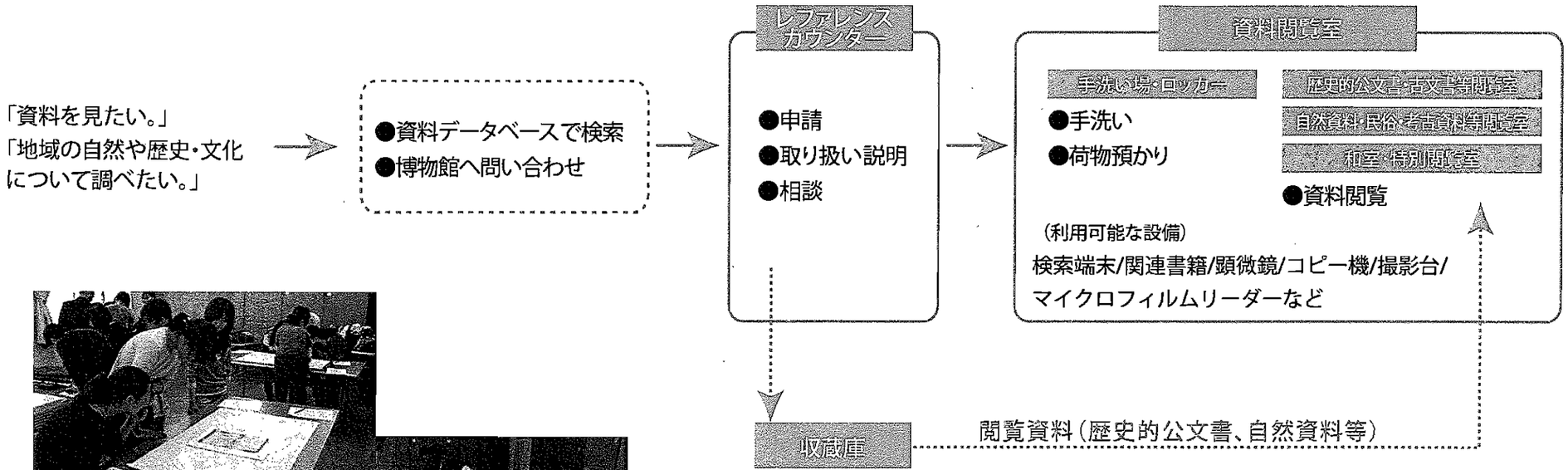
TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

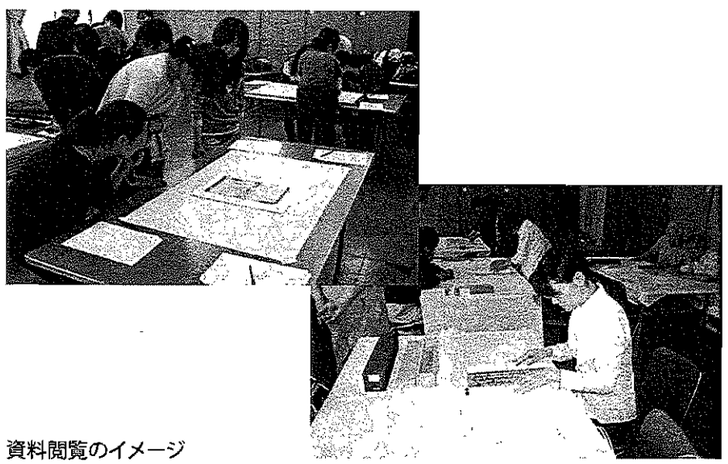
保存している自然・人文資料（歴史的公文書等を含む）などを閲覧できる博物館

博物館で所蔵する資料については、資料保存への配慮を前提とした所定の手続きを行うことにより、県民・利用者のみなさんが、閲覧、研究活動やさまざまな情報収集に利用することができます。資料への影響を考慮し、資料の種別や性格によって閲覧室を区分します。



■資料閲覧活用のイメージ





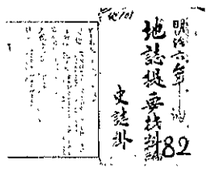
資料閲覧のイメージ

資料閲覧室 平面図

資料閲覧室は、閲覧する資料の種別や性格によって分けられた、歴史的公文書・古文書等閲覧室、自然資料・民俗・考古資料等閲覧室、和室・特別閲覧室で構成します。室内には、それぞれの資料に関連する書籍類、検索端末、顕微鏡、コピー機、撮影用テーブル、マイクロフィルムリーダーなどを設置します。

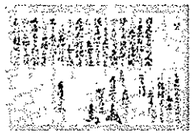
■資料閲覧室の構成

歴史的公文書・古文書等閲覧室



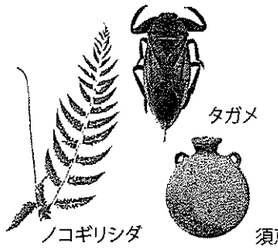
地誌提要材料編

三重県庁の歴史的公文書（選別公文書と明治期県庁文書・絵図など）、古文書や冊子・版本などの文献史料、版画や絵巻などの絵画資料など、主に紙媒体の資料を閲覧できます。


伊藤又五郎家文書

熊野本地絵巻

自然資料・民俗・考古資料等閲覧室

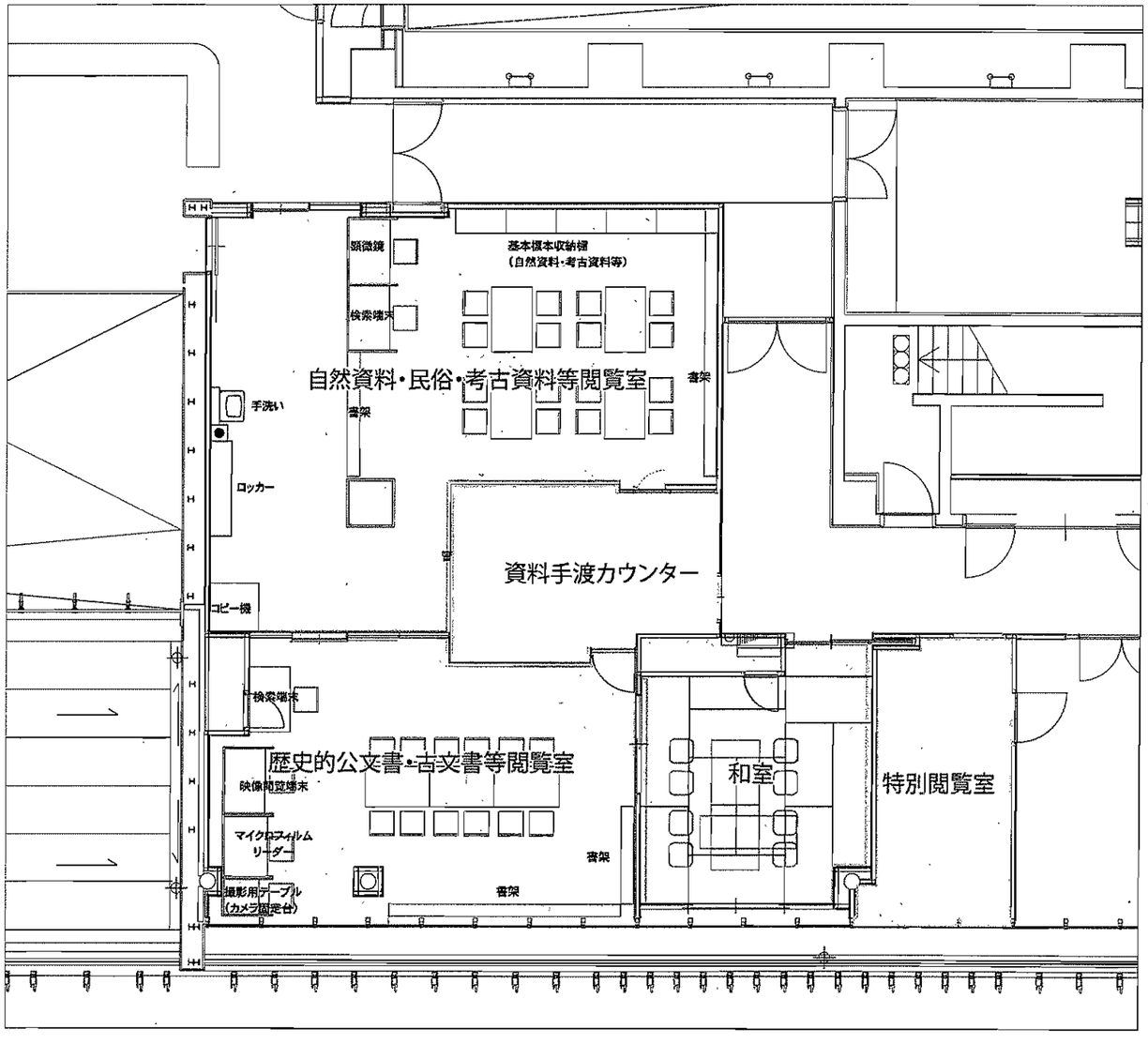


化石・鉱物などの地学標本資料、動・植物の標本資料などの自然系資料、民俗・考古・陶磁器などの人文系の器物資料を閲覧できます。

和室・特別閲覧室

本居宣長像

軸物や屏風・大型絵図など、机上で扱うことが困難な資料、特別な配慮が必要な資料の閲覧、団体や行政機関等の特別な閲覧に使用します。



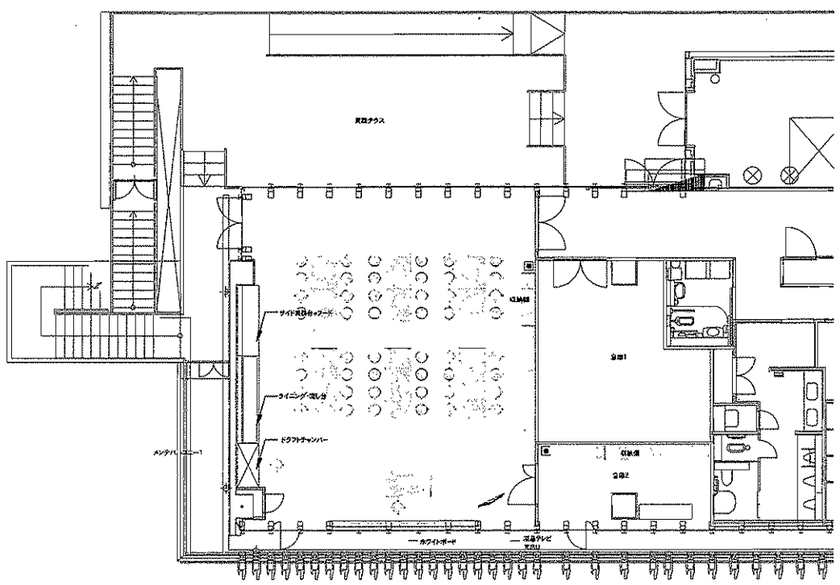
S=1/100

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

その他諸室 平面図（実験実習室／研修ガイダンスルーム／県民活動室／飲食・休憩スペース）

■実験実習室

約50人が収容できる、さまざまなワークショップの実施や実験・実習型の講座などを開催する部屋。水や火を用いたプログラムも実施可能な設備を設置します。

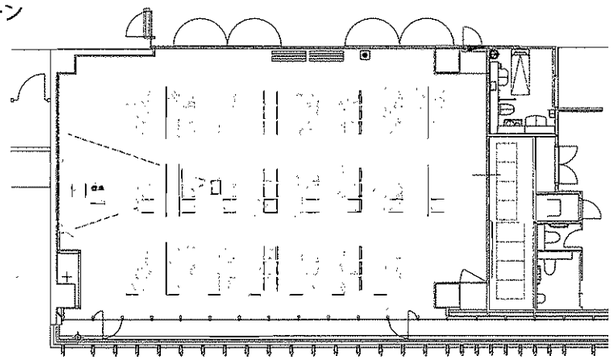


S=1/200

■研修・ガイダンスルーム

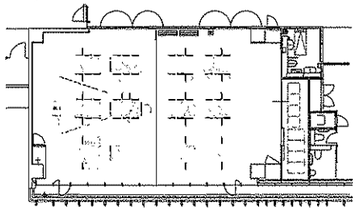
最大で140人収容できる、博物館講座や小規模の講演会、団体や学校向けのガイダンスなどを行う部屋。講座内容等によって、部屋を区切り、複数の部屋として使うことができます。また、雨天時の昼食も可とします。

Aパターン

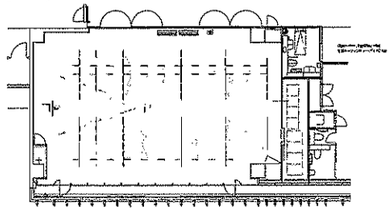


S=1/200

Bパターン

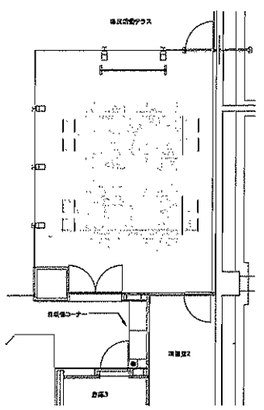


Cパターン



■県民活動室

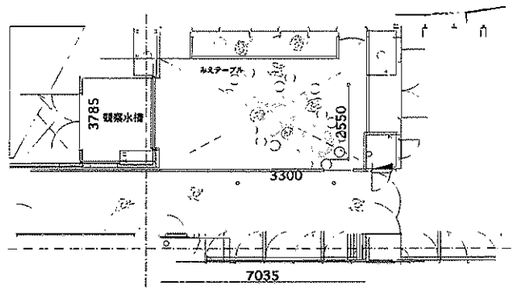
博物館の活動に参加・参画する県民・利用者のみなさんや団体などが活動するための部屋です。

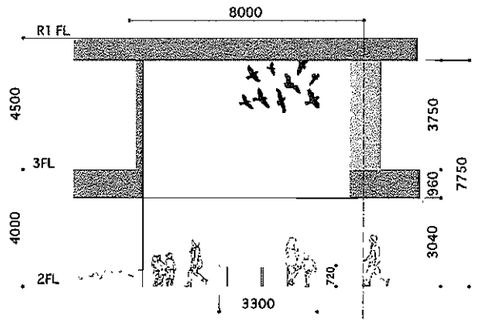


S=1/200

■飲食・休憩スペース

ミュージアムフィールドが望め、特別天然記念物のオオサンショウウオの飼育水槽に面した空間です。飲み物を飲んだり、お弁当を食べたりする場所で、配置するテーブルなども展示演出を施したものとします。





S=1/200

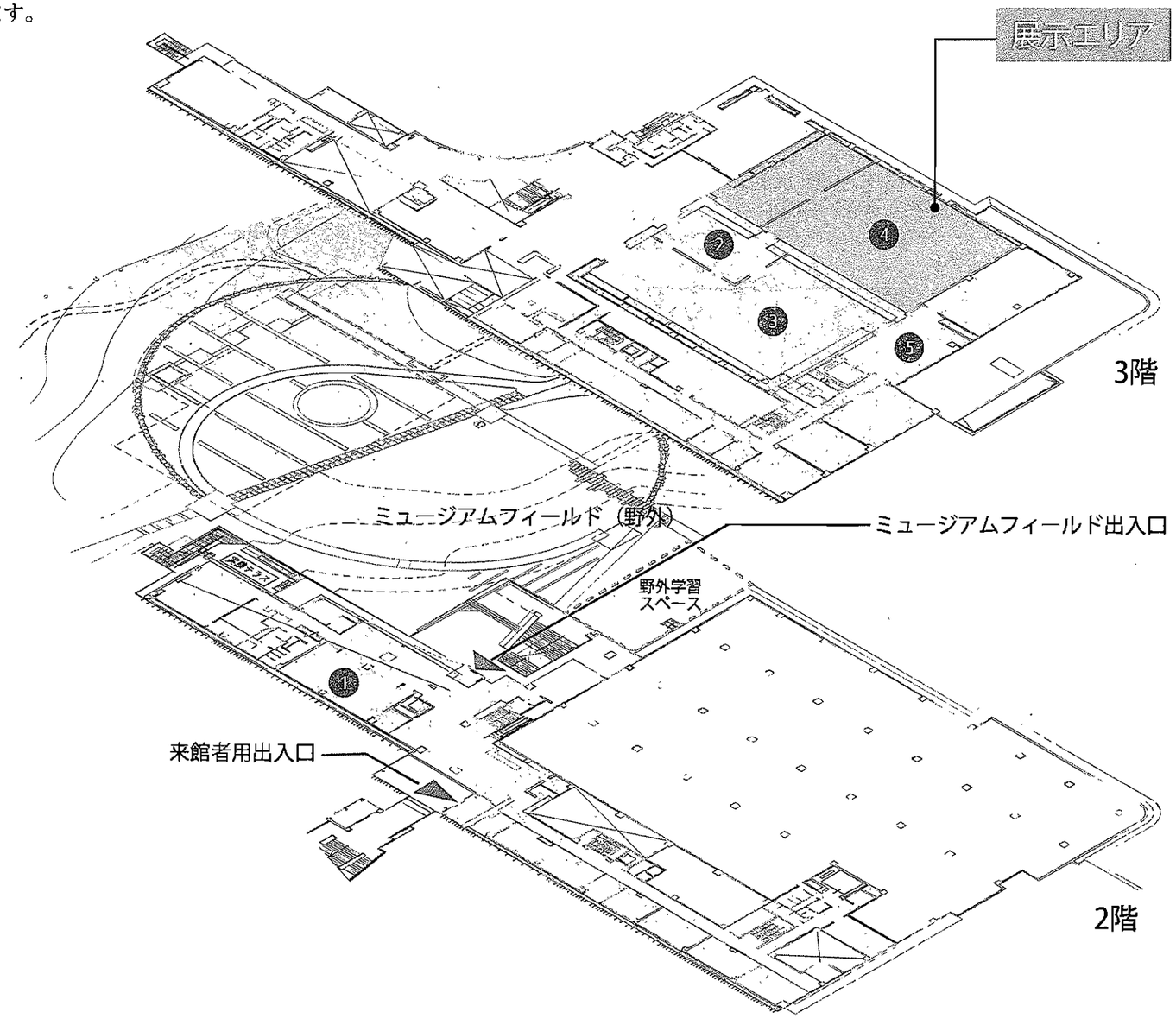
基本展示室と複数のテーマ展示室が連動して、さまざまな三重を発信する

基本展示室と可変的な複数のテーマ展示室で構成する展示エリアでは、三重の魅力を概観する基本展示と複数のテーマによる大小さまざまな展示などを複合的に展開し、それらが連動することで、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を多角的に紹介し、発信します。

テーマ展示室(P.16,24-26)

展示の内容・規模に対応する3つの可変的で柔軟な利用ができる展示室によって、全国規模の展示から小さな展示まで、また館の自主企画から、県民・利用者のみなさんとの協創による展示まで、さまざな展示を組み合わせて展開し、更新することで、三重の魅力を多角的に伝えます。

1. **交流テーマ展示室1**
2. **交流テーマ展示室2**
3. **企画テーマ展示室**

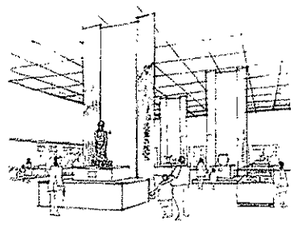


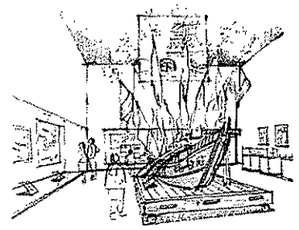
4. **基本展示室**(P.16-23)
三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」やその魅力をわかりやすく紹介し、「三重ってすごいところ!」を発信します。一つの空間で展示することで、豊かな自然の中で人・モノ・文化やくらしが育まれた三重を総合的に表現します。美しさ、ダイナミックさなど、体感的に伝える展示で来館者をひきつけ、さらにより詳しい情報へと興味・関心を深める展示とします。

5. **展示準備作業室**

訪れるたび、新しい視点や角度で見ることができる展示

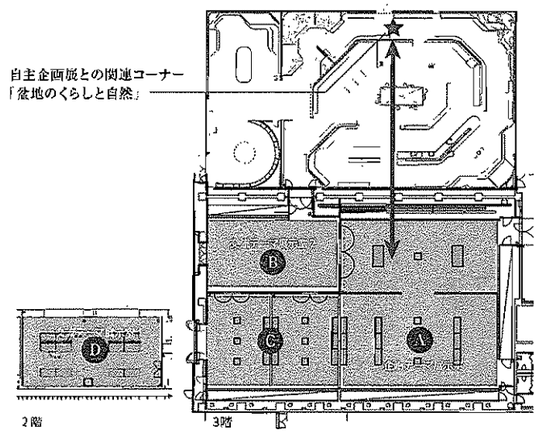
「基本展示」では、三重の多様で豊かな自然が、多様で豊かな歴史と文化を生み出し育んできたことを、一つの空間で一体的に紹介します。さらに基本展示で紹介する内容を補完したり、より発展した内容とするやや小規模のトピック展示や規模の大きな自主企画展、全国的な規模で行う全国巡回展などの「テーマ展示」とを組み合わせることで、訪れるたび、新しい発見のある展示となります。
基本展示は、展示ストーリーに沿った基本動線を設けますが、見学者一人ひとりが、それぞれの興味や関心に応じたさまざまな見方ができる自由な動線も用意しています。
テーマ展示の展開は、三重の豊かな自然と歴史・文化について、四季にちなんだ展示展開や分野別、地域別などさまざまな切り口で、自然系、人文系、あるいはそれらを総合的な視点でとらえた総合系展示として展開します。





展開例1　3階テーマ展示室を3つに分けた展開例＝4種類の展示を開催

「盆地のくらしと自然～伊賀盆地～」のコーナーと連動し、伊賀の歴史的な事柄について、より深く紹介する自主企画展



Ⓐ 自主企画展
歴史展示「伊賀の歴史を探る～筒井定次と伊賀上野～」

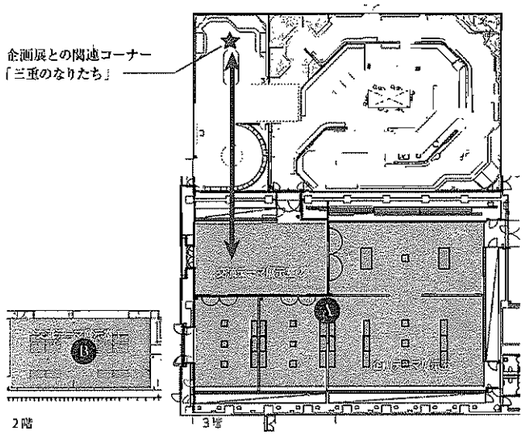
Ⓑ トピック展示
自然系展示「生きものの不思議～旅をするチョウ～」

Ⓒ 県民協創交流展
県民・利用者のみなさんとの協働による調査研究成果の発表展示「三重の軽便鉄道を探る」

Ⓓ 交流テーマ展示室1
他機関との連携展「みんながつくった標本展」
(学校と連携して、夏休みの自由研究の成果を発表する展示)

展開例2　2階・3階テーマ展示室全部を使って大規模な企画展を開催

「三重の大地のなりたち」コーナーと連動した、全国規模の企画展

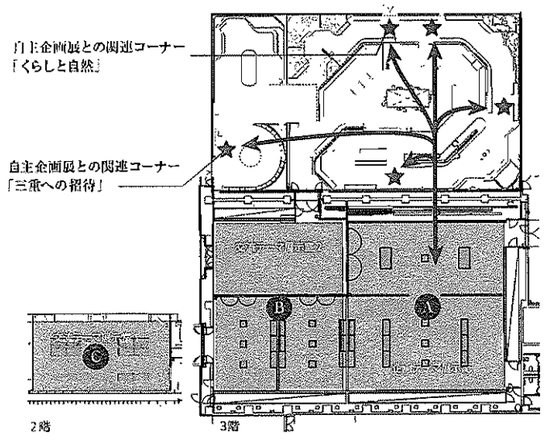


Ⓐ 企画展
自然系展示「よみがえる太古の生きものたち
～大型恐竜トバリュウの世界～」

Ⓑ 企画展と連携したトピック展示
「トバリュウが見つかるまで～発掘調査パネル展～」

展開例3　3階テーマ展示室を2つに分けた展開例＝3種類の展示を開催

三重への招待・くらしと自然コーナーと連動し、明治時代の三重のすがたについて、歴史的公文書などにより紹介する企画展



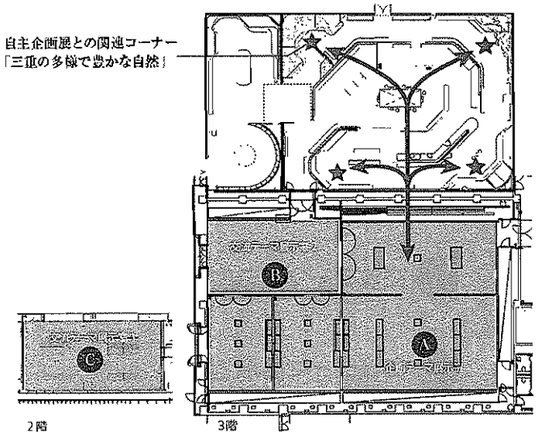
Ⓐ 自主企画展
歴史的公文書展示
「絵図・地図からみる明治時代の三重のすがた～」

Ⓑ トピック展示
総合系展示
「100年前の三重～写真で見る三重の自然とくらし～」

Ⓒ 2階交流テーマ展示室1
他機関との連携展「防災三重～活断層から探る～」
(県の施策と連携した展示)

展開例4　3階テーマ展示室を2つに分けた展開例＝3種類の展示を開催

三重の多様で豊かな自然コーナーと連動し、生態系サービスについて、紹介する企画展



Ⓐ 自主企画展
「自然からのめぐみ～生態系サービスを考える～」

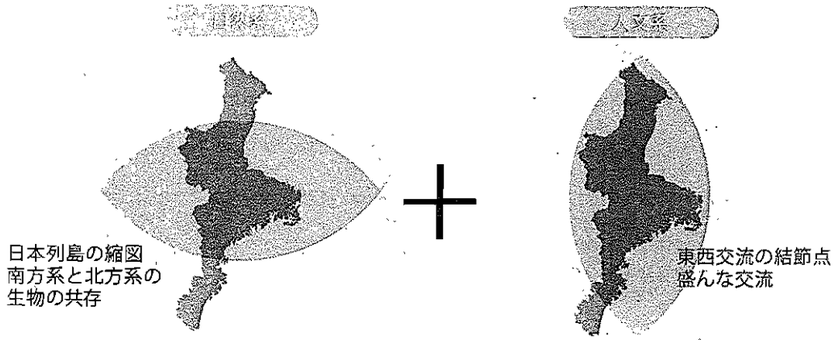
Ⓑ トピック展示
総合系展示「ウシ・牛・丑年(干支シリーズ)」

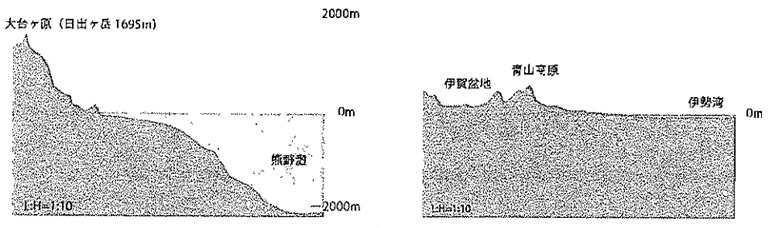
Ⓒ 2階交流テーマ展示室1
県民協創造交流展「三重の干潟の今昔
～干潟から環境を考える～」
(県民・利用者のみなさんとの協働による調査研究成果の展示)【基本展示　伊勢湾の自然コーナーとの関連展示】

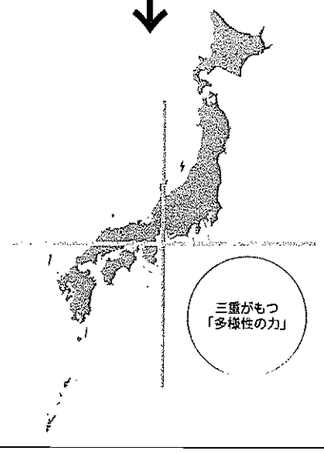
■基本的な考え方

多様で豊かな自然は、多様で豊かな歴史と文化を生み出し、育んできた

日本列島のほぼ中央に位置する三重は、南北に長く、-2,000m の深海から標高 1,700m もの山岳を含むさまざまな自然環境に囲まれた、まさに日本列島の縮図といえる多様で豊かな自然を有しています。その自然を背景に、三重では、特色ある地域文化と、活発な人やモノの交流が共存する独特の風土が育まれました。海と山の文化が出会う場所となり、そして古くからの交通の要衝として栄え、東西文化の結節点となったのです。
こうした三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」やその魅力をわかりやすく紹介し、「三重ってすごいところ！」を県内外に発信します。





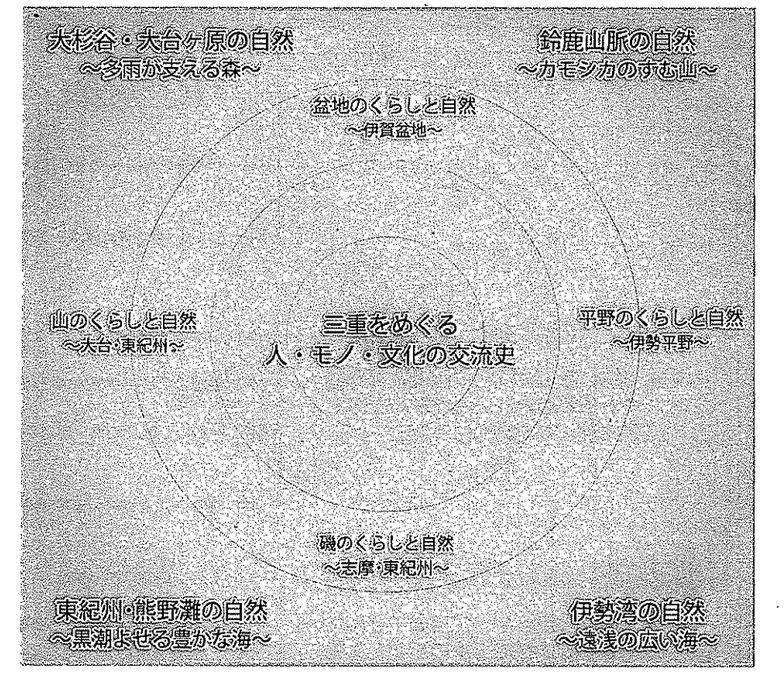


■ゾーニングの考え方

自然の中で人・モノ・文化が育まれた三重を、一つの空間で展開

基本展示室は、大杉谷・大台ヶ原、鈴鹿山脈、伊勢湾、熊野灘に代表される三重の特徴的な自然環境を四隅に配置し、その中で育まれた人・モノ・文化の交流とその歴史を中央で展開します。また、盆地、平野、磯、山の4つの視点から人のくらしと自然の関わりを総合的に考えるコーナーを、それらの間に配置します。これらを大きな空間で一体的に紹介することで、三重の自然と歴史・文化を総合的にとらえ、表現します。

■基本展示室ゾーニングコンセプト



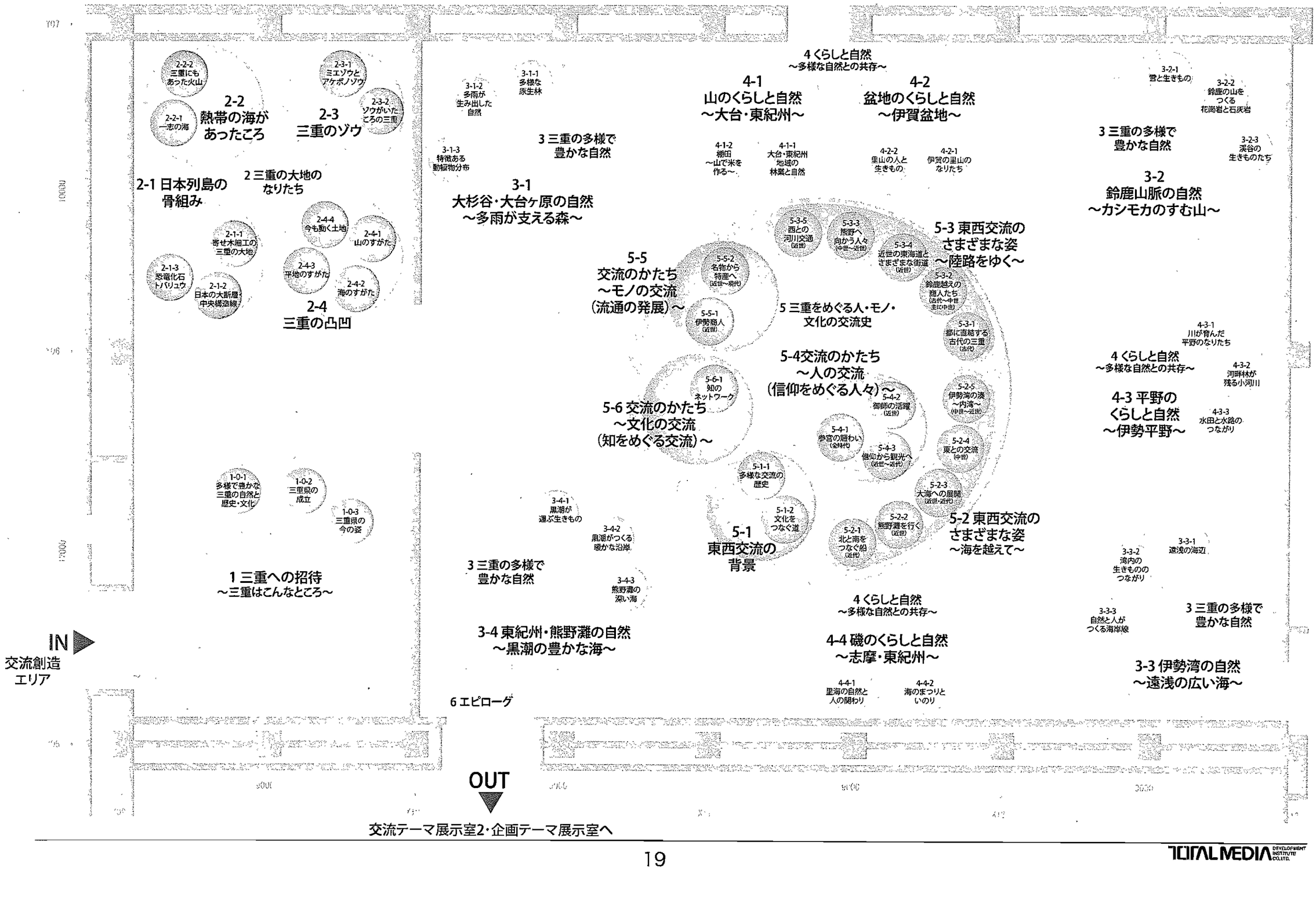
展示テーマの構成

基本展示室

大テーマ	中テーマ	小テーマ	細目
1 三重への招待～三重はこんなところ～ 三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力を感覚的に紹介するとともに、三重県の成り立ちや三重県の今の姿を示す。		1-0-1 多様で豊かな三重の自然と歴史・文化	
		1-0-2 三重県の成立	
		1-0-3 三重県の今の姿	
2 三重の大地のなりたち 現在の日本列島や、三重の山や海が46億年の地球史の中でどのように形成されてきたかを紹介。	2-1 日本列島の骨組み	2-1-1 寄せ木細工の三重の大地	動いてるプレート／南からやってきた枕状溶岩や石灰岩・チャート／付加体でできた三重／付加体が温度や圧力で変成された岩石／マグマが固まった花崗岩／マントルからやってきたかんらん岩
		2-1-2 日本の大断層・中央構造線	中央構造線は断層／中央構造線で分けられる岩石／中央構造線のでき方
		2-1-3 恐竜化石トバリュウ	トバリュウの発掘／トバリュウとそのなかま／南からきたトバリュウ
	2-2 熱帯の海があったころ	2-2-1 一志の海	一志層群のたい積／化石が語る海の世界
		2-2-2 三重にもあった火山	熊野の石と室生の石／三重の若い花崗岩
	2-3 三重のゾウ	2-3-1 ミエゾウとアケボノゾウ	三重にいたミエゾウ／島で進化したアケボノゾウ
		2-3-2 ゾウがいたころの三重	東海層群と古琵琶湖層群／ゾウがいたころの気候
	2-4 三重の凸凹	2-4-1 山のすがた	逆断層でできた鈴鹿山脈／高くなる紀伊山地／布引の青山高原
		2-4-2 海のすがた	太平洋とつながった伊勢湾／海盆が広がる熊野灘
		2-4-3 平地のすがた	粘土層が広がる伊賀盆地／起伏の多い伊勢平野／水田が広がる沖積平野
		2-4-4 今も動く土地	プレートの沈み込み帯と地震／活断層と地震
3 三重の多様で豊かな自然 鈴鹿や大台の山々、伊勢湾、熊野灘に育まれた三重の多様で豊かな自然を紹介。	3-1 大杉谷・大台ヶ原の自然 ～多雨が支える森～	3-1-1 多様な原生林	原生林のなりたち／常緑樹林の生きもの／落葉樹林の生きもの／針葉樹林の生きものたち
		3-1-2 多雨が生み出した自然	１日1000mmの雨／大杉谷のくら(嵐)と滝／雨が支える崖の植物
		3-1-3 特徴ある動植物分布	歴史を語る植物／隔てられた生きもの／大台山系特有の生きもの
	3-2 鈴鹿山脈の自然 ～カモシカのすむ山～	3-2-1 雪と生きもの	カモシカ／多雪と植物分布／北の生きもの
		3-2-2 鈴鹿の山をつくる花崗岩と石灰岩	鈴鹿山脈の地形・地質／花崗岩地帯の自然／石灰岩地帯の自然／花の名山の藤原岳
		3-2-3 渓谷の生きものたち	渓流をつくる森／渓流の動物
	3-3 伊勢湾の自然 ～遠浅の広い海～	3-3-1 遠浅の海辺	伊勢湾のすがた／海とつながる河口／潮の干満／豊穣な干潟／砂浜に生きる／海岸の四季の鳥
		3-3-2 湾内の生きもののつながり	スナメリが育まれる生きもののつながり
		3-3-3 自然と人がつくる海岸線	伊勢湾の海岸線の今昔(ラグーンと湊)
	3-4 東紀州・熊野灘の自然 ～黒潮の豊かな海～	3-4-1 黒潮が運ぶ生きもの	流れる黒潮／黒潮が南から運ぶモノ／海が運ぶ植物の種
		3-4-2 黒潮がつくる暖かな沿岸	リアス式海岸／小石の浜～七里御浜～／暖かさがつくる森
		3-4-3 熊野灘の深い海	海の底の山と谷／マッコウクジラの生態／深い海の生きもの
4 くらしと自然～多様な自然との共存～ 平野、盆地、磯、山の４つの地域に焦点をあて、それぞれの地域における人のくらしと自然の関わりを総合的に考える。	4-1 山のくらしと自然～大台・東紀州～	4-1-1 大台・東紀州地域の林業と自然	林業の発展／杣の道具／明日の林業と文化的景観
		4-1-2 棚田～山で米を作る～	水を配る／棚田の継承
	4-2 盆地のくらしと自然～伊賀盆地～	4-2-1 伊賀の里山のなりたち	
		4-2-2 里山の人と生きもの	里山の自然と暮らす(～伊賀市諏訪の里山と民俗～)／ため池に親る身近な自然
	4-3 平野のくらしと自然～伊勢平野～	4-3-1 川が育んだ平野のなりたち	
		4-3-2 河畔林が残る小河川	祓川と河畔林／祓川の水生生物
		4-3-3 水田と水路のつながり	
	4-4 磯のくらしと自然～志摩・東紀州～	4-4-1 里海の自然と人の関わり	藻場が育む豊かな海／志摩半島沿岸地域の漁撈／潜水漁業と資源管理
		4-4-2 海のまつりといのり	
5 三重をめぐる人・モノ・文化の交流史 東西交流の結節点として、活発で盛んな交流が生み出された三重の歴史と文化を、人・モノ・文化の交流の視点から紹介。	5-1 東西交流の背景	5-1-1 多様な交流の歴史	
		5-1-2 文化をつなぐ道	
	5-2 東西交流のさまざまな姿～海を越えて～	5-2-1 北と南をつなぐ船(近代)	桑名の赤須賀船
		5-2-2 熊野灘を行く(近世)	日和湊と御城米船／海の難所 熊野灘
		5-2-3 大海への展開(近世・近代)	海を越えた商人 角屋七郎兵衛／四日市湊の発展
		5-2-4 東との交流(中世)	鳥羽の阿久志道妙／大湊と品川湊
		5-2-5 伊勢湾の湊 ～内湾～ (中世～近世)	安濃津の湊と中世の廻船／近世海運の発展
	5-3 東西交流のさまざまな姿～陸路をゆく～	5-3-1 都に直結する古代の三重(古代)	古代の東海道と伊勢路／都から来た・都へ運ばれた
		5-3-2 鈴鹿越えの商人たち(古代～中世 主に中世)	近江商人と十楽津／中世の旅人たちの道
		5-3-3 熊野へ向かう人々(中世～近世)	熊野詣の人々／西国三十三所巡礼
		5-3-4 近世の東海道とさまざまな街道(近世)	整備された街道と宿場／東西交通の大動脈 東海道／北と南、西と東をつなぐ
		5-3-5 西との河川交通(近世)	木津川水運の開発
	5-4 交流のかたち～人の交流(信仰をめぐる人々)～	5-4-1 参宮の賑わい(全時代)	伊勢信仰／おかげ参り
		5-4-2 御師の活躍(近世)	御師とは／饗応のかたち／御師の屋敷／御師を支えたもの (市場の賑わい)
		5-4-3 信仰から観光へ(近世～近代)	旅といえばお伊勢さん／参宮と名所巡り／鉄道と伊勢志摩観光
	5-5 交流のかたち～モノの交流(流通の発展)～	5-5-1 伊勢商人(近世)	伊勢木綿の道／本家と江戸店のしくみ／伊勢商人は遊びおり／その後の伊勢商人
		5-5-2 名物から特産へ(近世～現代)	親しまれた三重の名物／現代に継承された特産品
	5-6 交流のかたち～文化の交流(知をめぐる交流)～	5-6-1 知のネットワーク	知のネットワークを支えた風土(中世～近世 主に近世) ネットワークを構成する人々(中世～近代)
6 エピローグ 三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力を再確認し、三重が持つ「多様性の力」の探究へと誘う。			

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

基本展示室ゾーニング


2-2-2 三重にもあった火山
2-2-1 一志の海
2-2 熱帯の海があったころ
2-3-1 ミエゾウとアケボノゾウ
2-3-2 ゾウがいたころの三重
2-3 三重のゾウ
2-1 日本列島の骨組み
2 三重の大地のなりたち
2-1-1 寄せ木細工の三重の大地
2-1-3 恐竜化石トバリュウ
2-1-2 日本の大断層 中央構造線
2-4-4 今も動く土地
2-4-1 山のすがた
2-4-3 平地のすがた
2-4-2 海のすがた
2-4 三重の凸凹
3-1-2 多雨が生み出した自然
3-1-1 多様な原生林
3-1-3 特徴ある動植物分布
3-1 大杉谷・大台ヶ原の自然 ～多雨が支える森～
3 三重の多様で豊かな自然
4 くらしと自然 ～多様な自然との共存～
4-1 山のくらしと自然 ～大台・東紀州～
4-2 盆地のくらしと自然 ～伊賀盆地～
4-1-2 棚田 ～山で米を作る～
4-1-1 大台・東紀州地域の林業と自然
4-2-2 里山の人と生きもの
4-2-1 伊賀の里山のなりたち
3-2-1 雲と生きもの
3-2-2 鈴鹿の山をつくる 花崗岩と石灰岩
3 三重の多様で豊かな自然
3-2-3 渓谷の生きものたち
3-2 鈴鹿山脈の自然 ～カシモカのすむ山～
5-3-5 西との河川交通 (近世)
5-3-3 熊野へ向かう人々 (中世～近世)
5-3-4 近世の東海道とさまざまな街道 (近世)
5-3 東西交流のさまざまな姿 ～陸路をゆく～
5-3-2 鈴鹿越えの商人たち (古代～中世 主に中世)
5-3-1 都に直結する古代の三重 (古代)
5-5-2 名物から特産へ (近世～現代)
5-5 交流のかたち ～モノの交流 (流通の発展)～
5-5-1 伊勢商人 (近世)
5 三重をめぐる人・モノ・文化の交流史
5-4交流のかたち ～人の交流 (信仰をめぐる人々)～
5-4-2 御師の活躍 (近世)
5-4-1 参宮の賑わい (江戸時代)
5-4-3 信仰から観光へ (近世～近代)
5-2-5 伊勢湾の湊 ～内湾～ (中世～近世)
5-2-4 東との交流 (中世)
5-2-3 大海への展開 (近世・近代)
5-6-1 知のネットワーク
5-6 交流のかたち ～文化の交流 (知をめぐる交流)～
4-3-1 川が育んだ平野のなりたち
4-3-2 河畔林が残る小河川
4 くらしと自然 ～多様な自然との共存～
4-3 平野のくらしと自然 ～伊勢平野～
4-3-3 水田と水路のつながり
1-0-1 多様で豊かな三重の自然と歴史・文化
1-0-2 三重県の成立
1-0-3 三重県の今の姿
1 三重への招待 ～三重はこんなところ～
3-4-1 黒潮が運ぶ生きもの
3-4-2 黒潮がつくる暖かな沿岸
3-4-3 熊野灘の深い海
3 三重の多様で豊かな自然
3-4 東紀州・熊野灘の自然 ～黒潮の豊かな海～
5-1-1 多様な交流の歴史
5-1-2 文化をつなぐ道
5-1 東西交流の背景
5-2-1 北と南をつなぐ船 (近代)
5-2-2 熊野灘を行く (近世)
5-2 東西交流のさまざまな姿 ～海を越えて～
4 くらしと自然 ～多様な自然との共存～
4-4 磯のくらしと自然 ～志摩・東紀州～
4-4-1 里海の自然と人の関わり
4-4-2 海のまつりといのり
3-3-1 遠浅の海辺
3-3-2 湾内の生きもののつながり
3-3-3 自然と人がつくる海岸線
3 三重の多様で豊かな自然
3-3 伊勢湾の自然 ～遠浅の広い海～
IN 交流創造エリア
6 エピローグ
OUT
交流テーマ展示室2・企画テーマ展示室へ

基本展示室の展示ストーリー

■展示ストーリー

1. 三重への招待〜三重はこんなところ〜

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、−2,000mの深海から標高1,700mもの山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれています。多様で豊かな自然は、まさに日本列島の縮図といえるもので、その自然を背景に、独自性の強い地域文化と、活発な人やモノの交流が共存する独特の風土が育まれました。三重は海と山の文化が出会う場所となり、そして古くからの交通の要衝として栄え、東西文化の結節点となりました。
ここでは、基本展示の導入として、こうした三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力と力を感覚的に紹介するとともに、現在の私たちが住む三重県の姿を示します。

2. 三重の大地のなりたち

現在の日本列島や三重の山や海が46億年の地球史の中でどのように形成されてきたかを、プレートの動きを根底にすえて紹介します。また、日本列島の地質的な事がらを中心に地球史を紹介します。

3. 三重の多様で豊かな自然

三重には、大杉谷・大台ヶ原や鈴鹿山脈などの山々、日本で最大級の面積を持つ内湾である伊勢湾や黒潮がもたらす豊かな海である熊野灘など、豊かな自然環境に育まれています。これらの多様で豊かな自然を地理的な配置により紹介します。

4. くらしと自然〜多様な自然との共存〜

三重には、山地、丘陵、平野、盆地、磯、砂浜など実にさまざまな地形が展開しています。人々は、主に、平野や盆地、海浜や山あいに居住し、それぞれの地域の豊かな自然の中で、特色あるくらしが育まれてきました。
ここでは、人々のくらしの舞台となっている大台・東紀州の山、伊賀盆地、伊勢平野、志摩・東紀州の磯の４つの地域、特徴に焦点をあて、それぞれの地域における人と自然の関わりについて考えます。

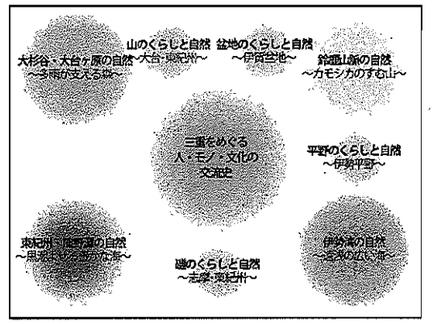
5. 三重をめぐる人・モノ・文化の交流史

三重は紀伊半島東部に位置し、東は伊勢湾・熊野灘に開いています。陸路は山を越えてこの地に集まり、海はハイウェイとなって東国への窓口となっています。東西交流の結節点であり、また、伊勢神宮が鎮まり、熊野三山とも結ばれ、活発で盛んな交流が生み出された三重の歴史と文化を、人・モノ・文化の交流の視点から紹介します。

6. エピローグ

基本展示の最終となるエピローグは、三重の特色である自然と歴史・文化の多様性の魅力を凝縮して紹介した基本展示室から、テーマ展示室、学習交流スペースの諸室、あるいは館外の日常空間への導入経路と位置づけられます。
ここでは、来館者の感想やメッセージを受け付けて掲示したり、今の三重が分かること、そして、未来に向けてのメッセージなどを示すことにより、三重の魅力を再確認しつつ、来館者を三重のもつ「多様性の力」の探求へと誘います。

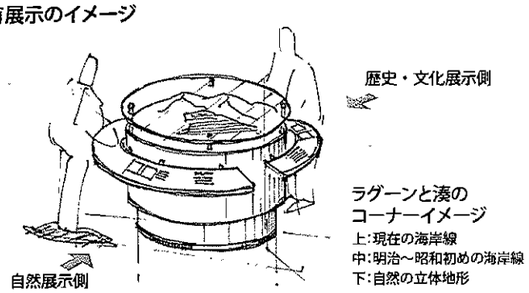
■展示室の特徴



● 「三重の多様で豊かな４つの自然」を背景に、それぞれの地域で育まれてきた「くらし」、「人・モノ・文化の交流史」を一つの空間の中で展開し、借景という視覚的効果により、人と自然の関わりを総合的に伝える展示構成としています。これらにより、自然の中で三重の歴史や文化が展開してきたこと、三重の歴史や文化は自然をベースに生まれてきたことが、体感できる展示としています。

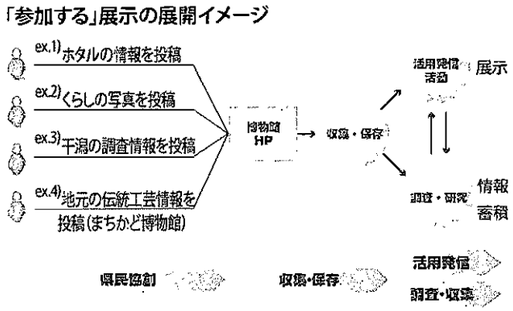
● 自然を舞台に歴史や文化、くらしが展開されたことを、一体的、総合的にとらえるため、一つの資料を自然と歴史・文化の両面から見る手法「共有展示」を取り入れています。

共有展示のイメージ

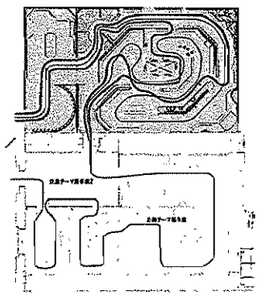


● ４つの「くらしと自然」のコーナーには、県民・利用者のみなさんから寄せられる「くらしと自然」に関連した写真資料や情報を反映する「参加する」展示を設け、県民・利用者のみなさんとともにつくる展示とします。

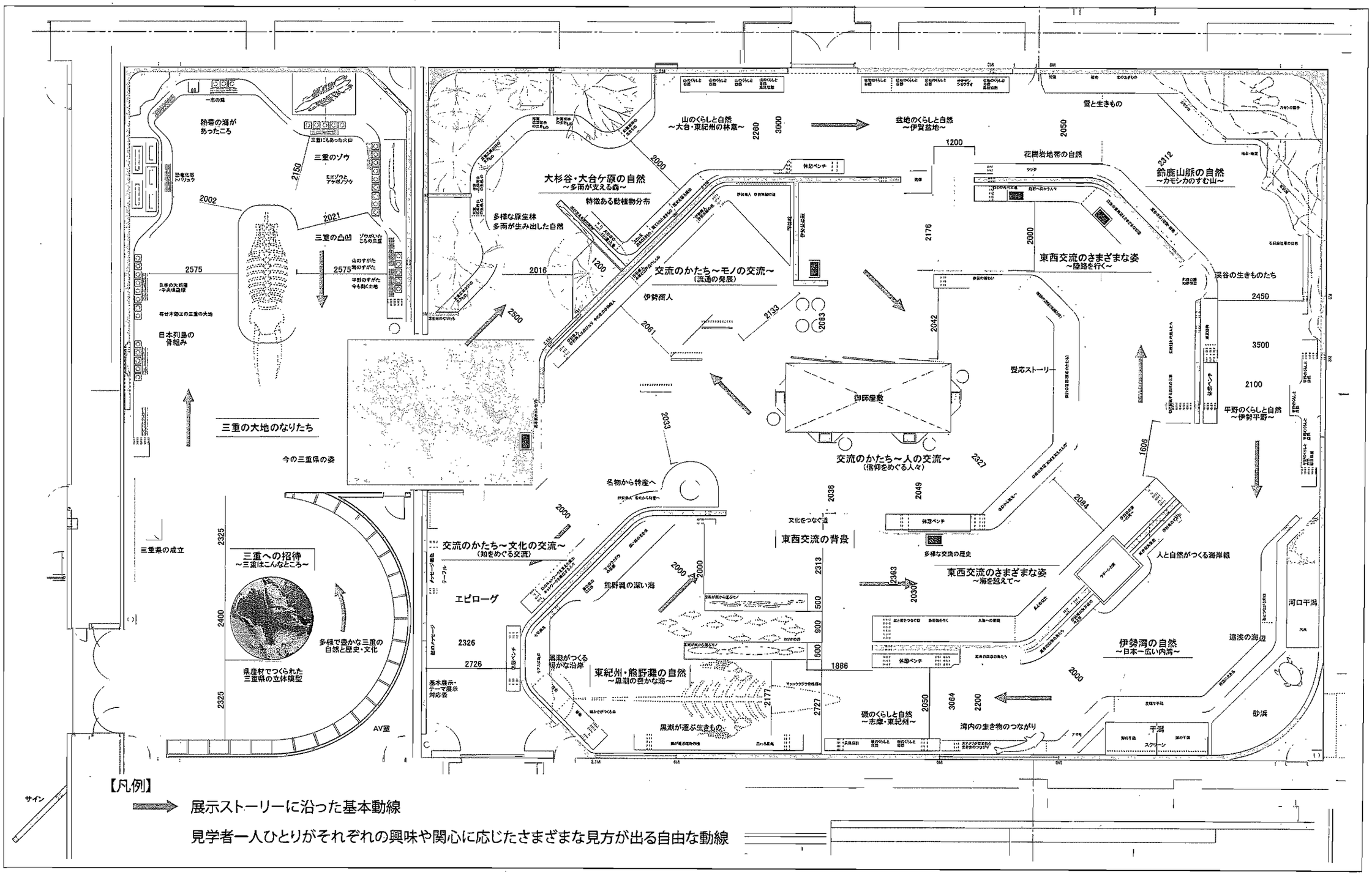
「参加する」展示の展開イメージ



● 展示ストーリーに沿った基本動線を設けますが、見学者一人ひとりが、それぞれの興味や関心に応じたさまざまな見方ができる自由な動線も用意しています。



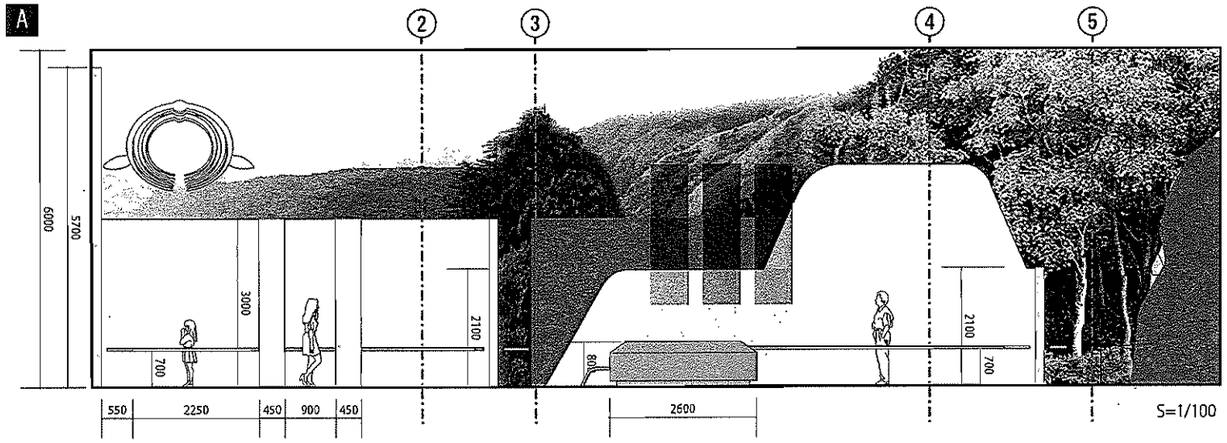
基本展示室 平面図

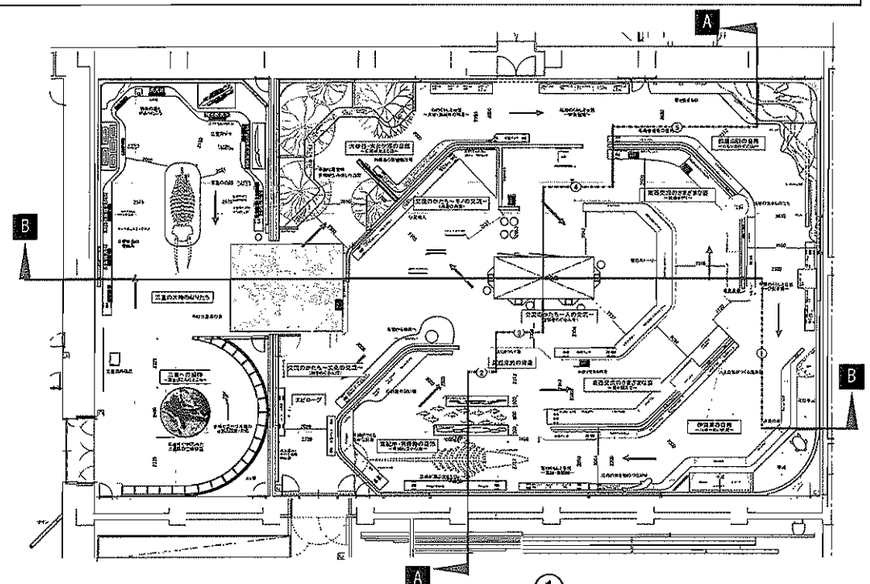


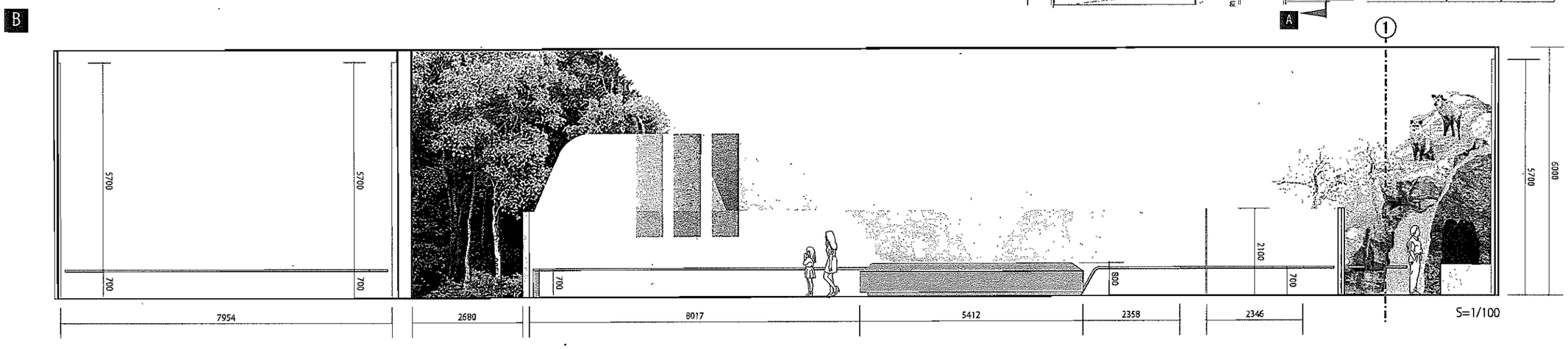
S=1/100

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

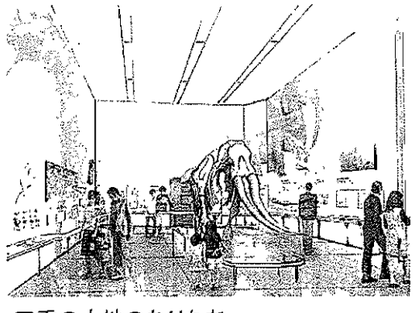
基本展示室 断面イメージ



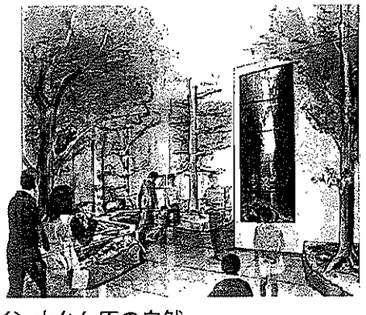




■展示イメージ

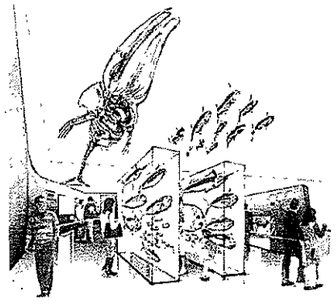


三重の大地のなりたち

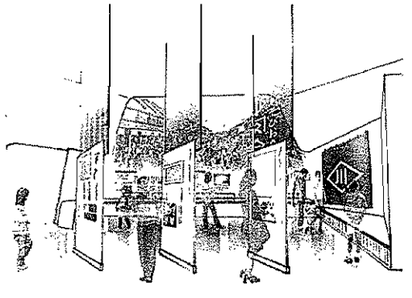


大杉谷・大台ケ原の自然

伊勢湾の自然

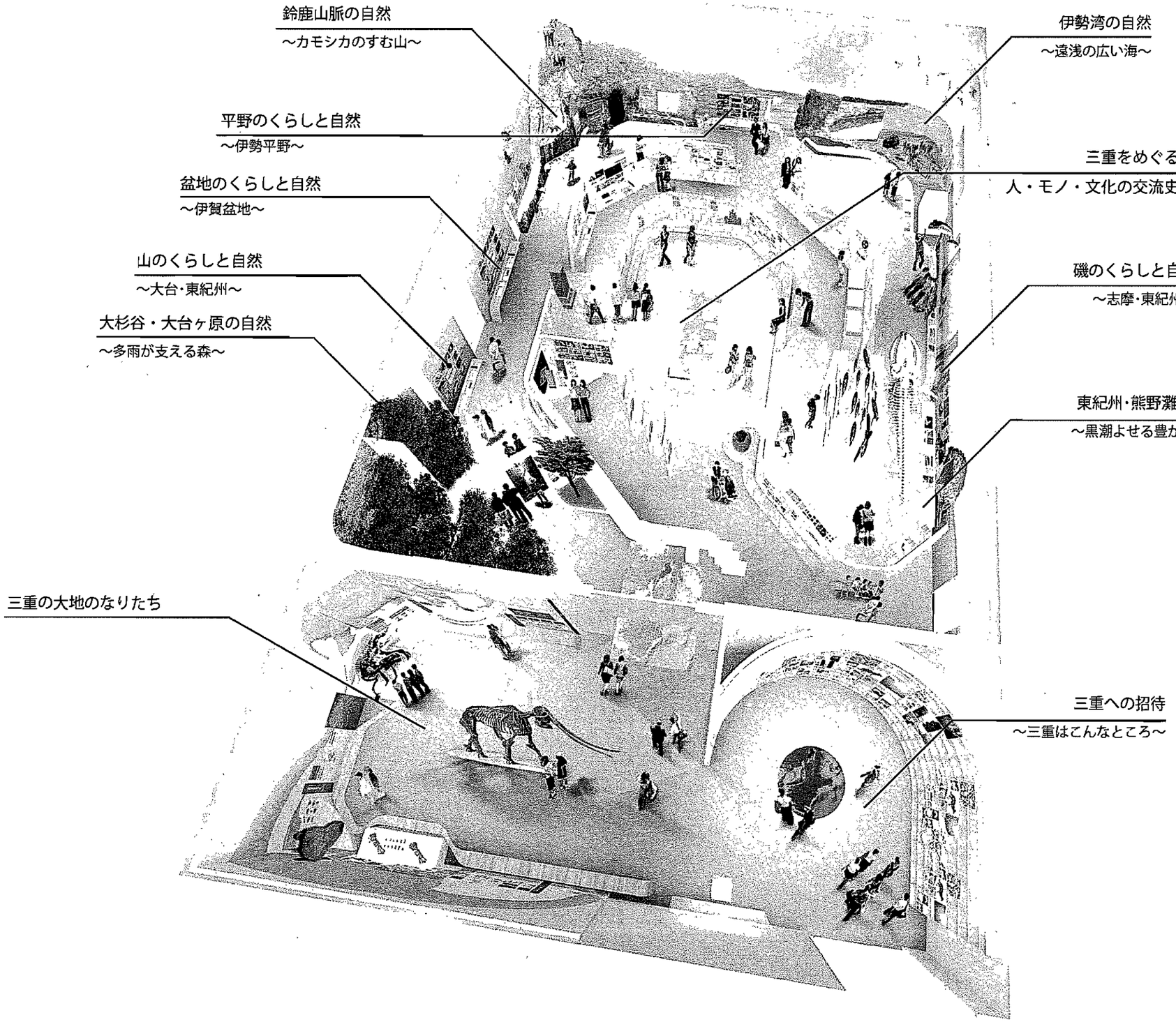


熊野灘の自然



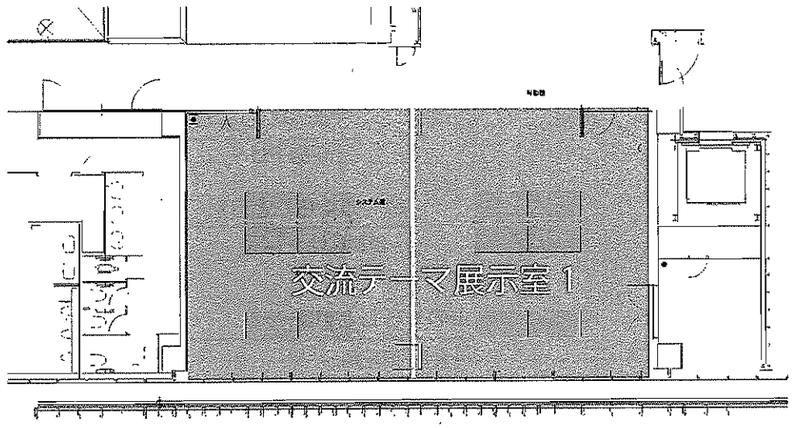
交流のかたち～モノの交流（流通の発展）～

基本展示室　イメージ


鈴鹿山脈の自然
～カモシカのすむ山～
平野のくらしと自然
～伊勢平野～
盆地のくらしと自然
～伊賀盆地～
山のくらしと自然
～大台・東紀州～
大杉谷・大台ヶ原の自然
～多雨が支える森～
伊勢湾の自然
～遠浅の広い海～
三重をめぐる
人・モノ・文化の交流史
磯のくらしと自然
～志摩・東紀州～
東紀州・熊野灘の自然
～黒潮よせる豊かな海～
三重の大地のなりたち
三重への招待
～三重はこんなところ～

三重の魅力を多角的に伝える可変型の展示室

基本展示室と可変的な複数のテーマ展示室で構成する展示エリアでは、三重の魅力を概観する基本展示と複数のテーマによる大小さまざまな展示などを複合的に展開し、それらが連動することで、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を多角的に紹介し、発信します。



テーマ展示室

交流テーマ展示室１

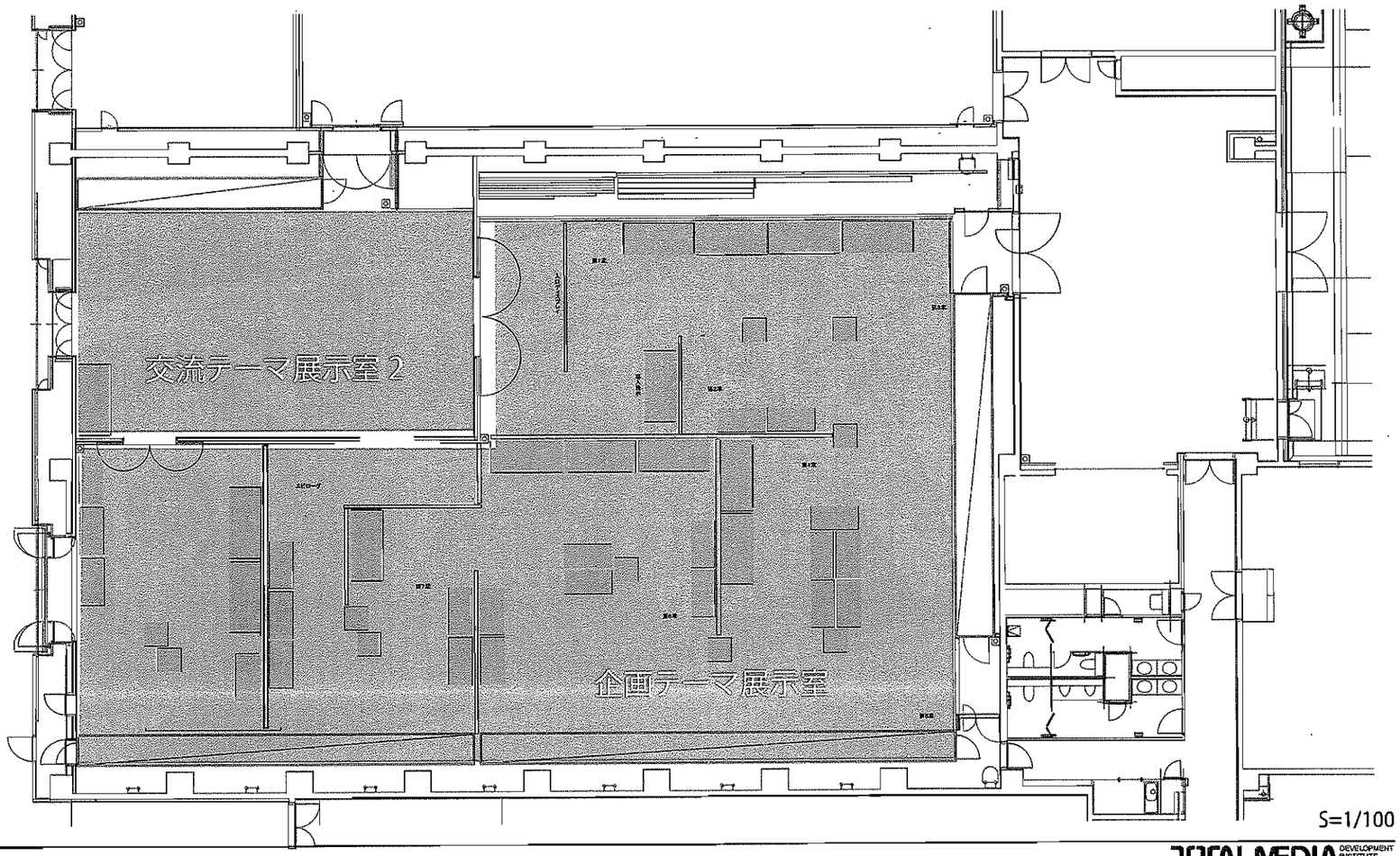
エントランスエリアに隣接する展示室。県民協創交流展などの多様な主体との交流展示や、ワークショップなど、開放性に富み、柔軟に活用できる仕様。

交流テーマ展示室２

交流テーマ展示室１と企画テーマ展示室の中間的な仕様設定の展示室。基本展示室に隣接し、基本展示と連動した展示の展開が可能。

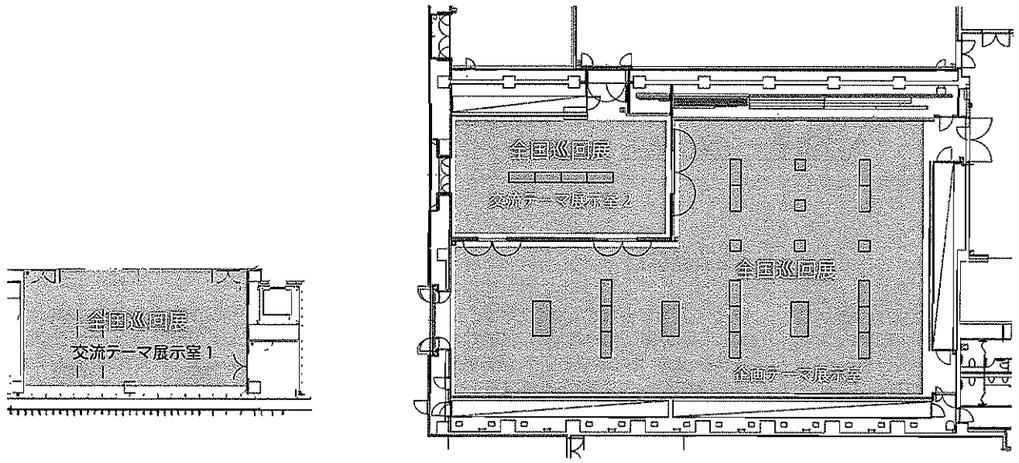
企画テーマ展示室

国宝・重要文化財などの指定文化財の展示にも対応できる展示室。可変型の区画により大小さまざまな規模・内容の展示が可能。



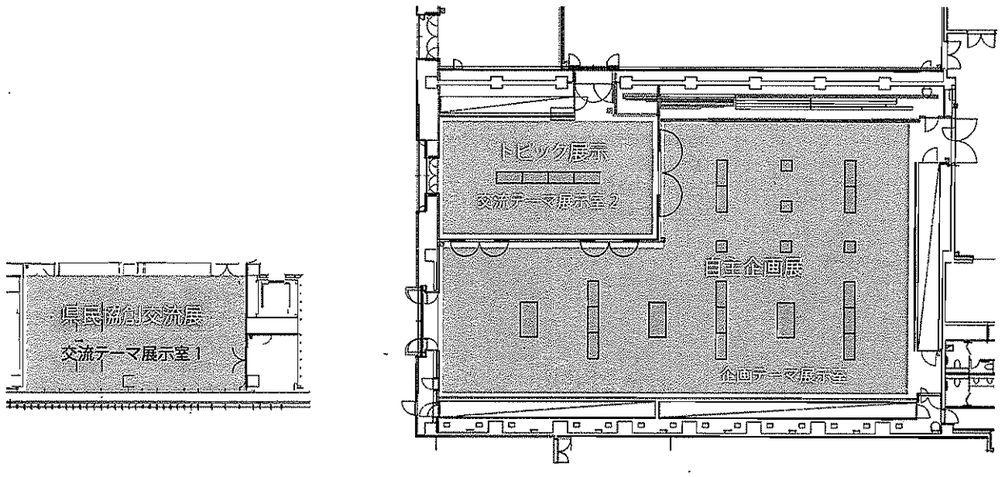
テーマ展示室の展示展開パターン例

■パターン1



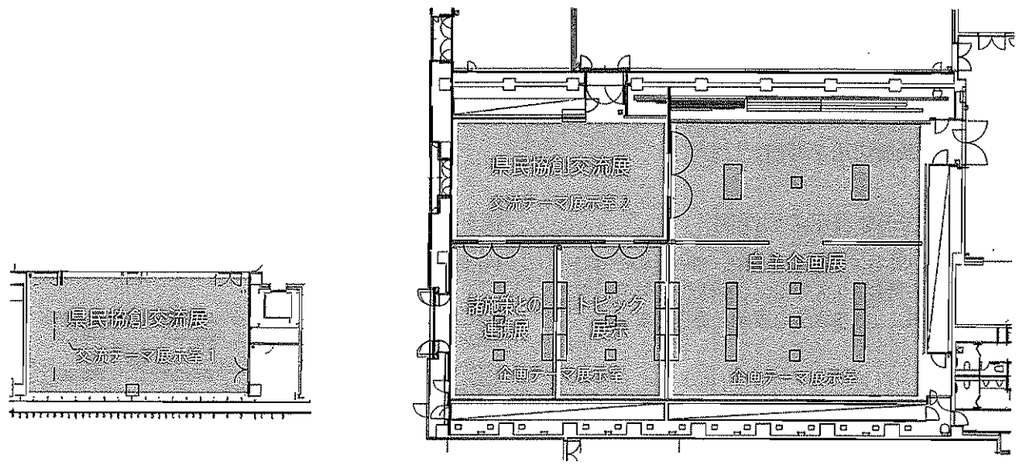
2階・3階のテーマ展示室全体で展開する全国巡回展の展開例。館全体で行う大規模な巡回展が可能です。

■パターン2



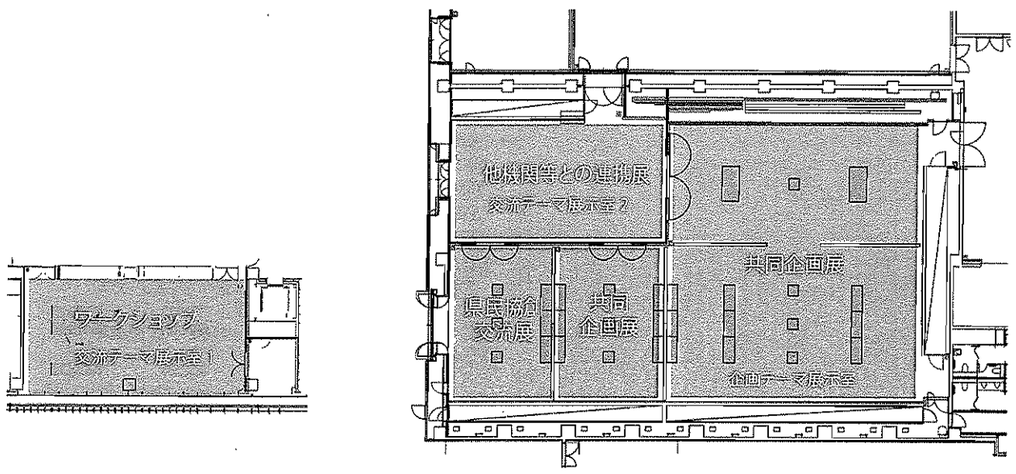
館の自主企画展と連動したトピック展示や県民協創交流展の例。共通のテーマをさまざまな視点や観点でみることができます。

■パターン3



フレキシブルに間仕切ることができるテーマ展示室を活用した例。さまざまな規模の展示を同時開催することが可能です。

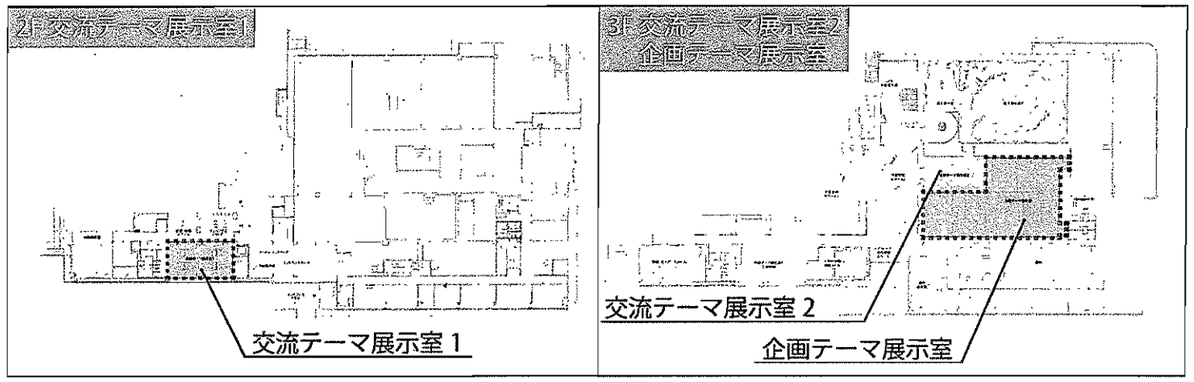
■パターン4



さまざまな団体や県民と行う連携展の例。幅広い活用が可能な交流テーマ展示室1では、展示だけでなく、ワークショップなども開催できます。

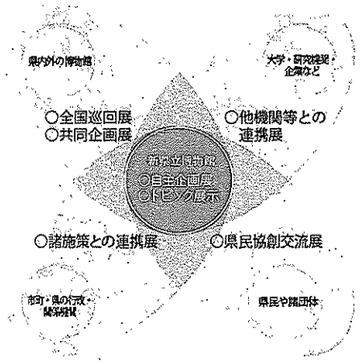
フレキシブルな空間でさまざまな展示を可能にする

基本展示室と連動させ、大規模な全国巡回展や自主企画展、県民との協創交流展などの組み合わせで、多様な三重の魅力を幅広く紹介します。それぞれの展示内容や規模に応じて、大小さまざまな展示空間をつくりだします。3 種類の仕様を持つ展示室を効果的に組み合わせ、多様な展示活動を展開します。また、交流テーマ展示室では、展示だけではなく、ワークショップなどの多彩な催しの会場として使用するなど、柔軟な活用を可能とします。



■さまざまな展示の展開例

館独自の展示はもとより、県民・利用者のみなさんや他の博物館、大学など、多様な主体のみなさんとともに、さまざまな展示を展開します。



■テーマ展示室のテーマ例

【企画展示】

従来型の特別展・企画展に相当するもの。調査研究などの成果をベースに三重の自然と歴史・文化や、これらにちなむ幅広い魅力を紹介する「自主企画展」と、全国的な規模で行う「全国巡回展」から構成します。

1. 自主企画展（広さ400～800㎡程度、内容によって変化）

- 館独自で企画する規模の大きな展示。トピック展示より大きな規模で展開。
- 年に数回程度開催。
- 基本展示室で紹介する内容をさらに充実・発展させたものとする最新の研究成果なども交えて展開。

《展示テーマの想定例》（ ）は分野

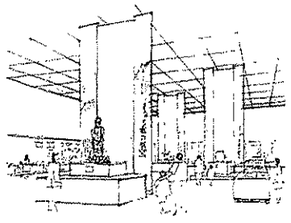
- ○美し国・三重 - 三重の至宝 -（歴史・美術）
- ○みんなでつくり、みんなで楽しむ博物館づくり（総合）
- ○自然からの恵み - 生態系サービスを考える -（自然）
- ○足跡からわかること（総合・自然）
- ○ようこそ恐竜ラボへ - 化石の謎をときあかす -（地学）

2. 全国巡回展（広さ600～800㎡程度、内容によって変化）

- 全国の博物館間のネットワークによって、実行委員会形式などにより、全国的に巡回する展示。
- 新聞社などがスポンサーになって、全国的に巡回する企画展示を誘致。
- 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- ○日本で見つかった恐竜たち - 大型恐竜大移動の謎を探る -（地学）
- ○日本列島にゾウにいたころ（地学）
- ○東アジア世界の交流 - 海の道と日本文化 -（民俗・歴史）
- ○発掘された日本列島（考古）



【トピック展示】（広さ200㎡程度）

基本展示を補完・発展した内容のやや小規模な展示で、いつ来ても何か違う展示（随時展示替え）を開催します。三重の豊かな自然と歴史・文化について、自然系と人文系、または総合系の展示として、四季にちなんだ展示展開や分野別、分類別、地域別など、さまざまな切口で紹介します。

《総合系トピック展示の想定例》

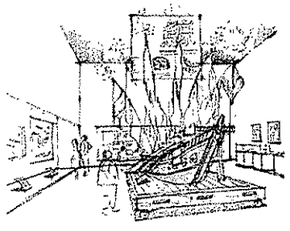
- ○物語のなかの生きものたち
- ○ウシ・牛・丑年（干支シリーズ）
- ○サクラとその名所
- ○陶器に描かれた草花の意匠
- ○三重県水産図解と海川のさかなたち

《自然系トピック展示の想定例》

- ○化石からさぐる中生代の三重
- ○ミエゾウとアケボノゾウ（三重にゾウがいたころ）
- ○中央構造線ってなんだろう
- ○湿地の植物
- ○伊勢湾の自然

《人文系トピック展示の想定例》

- ○伊賀国の風土と歴史
- ○押出仏と鳥居古墳
- ○三重をめぐる古文書
- ○藩主・文人たちの芸術
- ○黒潮に舞う海女



【交流展示】

県民・利用者のみなさんや諸団体などとの協創による調査研究成果の展示、県民・利用者のみなさんや諸団体の主体的な活動成果に、博物館が展示技術の支援などを行い実施する「県民協創交流展」をはじめ、三重県博物館協会、県内博物館、大学、地場産業の団体、企業等と連携して実施する「他機関との連携展」、博物館の展示発信機能を生かして、県の諸施策をより効果的に発信することを目的とした「県の諸施策との連携展」など、さまざまな主体とともに行う展示です。

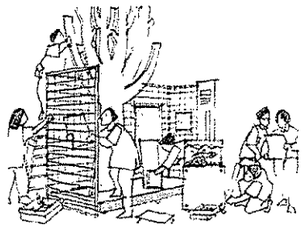
1. 県民協働交流展

（広さ100～400㎡程度、内容によって変化）

- 県民、利用者のみなさんとの協働による調査研究成果の展示活動。
- 県民・利用者のみなさんや諸団体の主体的な活動成果に、博物館が展示技術の支援などを行い実施する展示活動。
- 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- ○県民参加型調査展「三重の干潟の今昔 - 干潟から環境を考える - 」（自然）
- ○小さなチョウの大きな旅 - 日本を縦断するチョウたち（自然）
- ○地域に残る石仏たち - サポートスタッフとの協働調査から（歴史）
- ○三重の軽便鉄道（歴史）
- ○庄屋文書を読み解く（歴史）



2. 他機関等との連携展

（広さ100～400㎡程度、内容によって変化）

- 博物館、大学、地場産業の団体、企業等と連携して実施する展示。
- 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- ○三重の博物館大集合 - 三重県博物館協会共催展 -
- ○大学研究室の研究をのぞく - 県内大学連携展 -
- ○三重の生物研究発表展
- ○小中高生の発表展 - 学校との連携展 -
- ○企業による生物多様性への社会貢献を考える

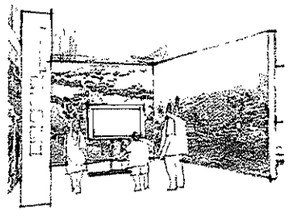
3. 県の諸施策との連携展

（広さ100～200㎡程度、内容によって変化）

- 博物館の展示発信機能を生かして、県の諸施策をより効果的に発信することを目的とした展示。
- 年に数回程度開催。

《展示テーマの想定例》

- ○三重の防災 - 活断層から探る
- ○戦争の記憶 - 過去の経験から平和を考える
- ○三重の子育て100年 - みんなで支える三重の子育て -
- ○観光三重いまむかし



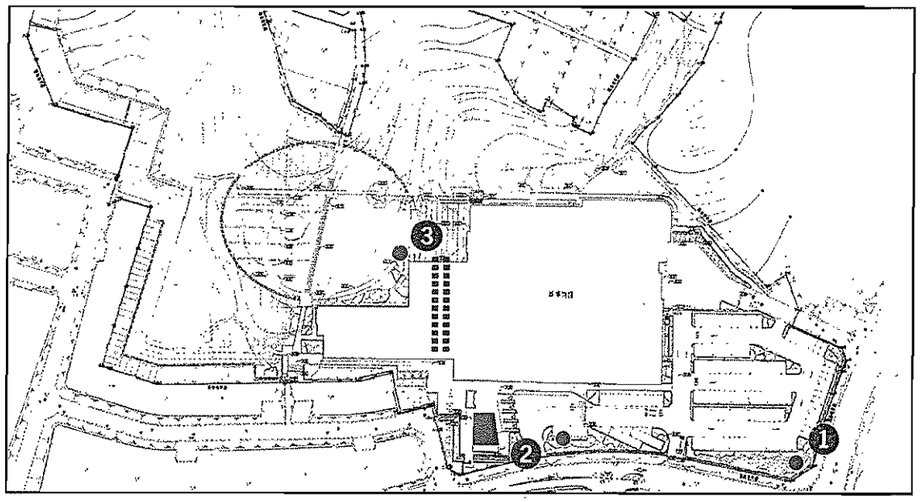
TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

■外構演出の考え方

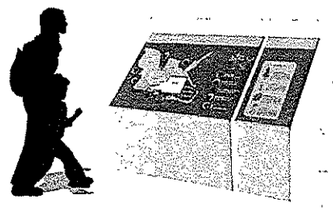
博物館への期待感を高める演出

博物館の催しを紹介する楽しい演出を施した情報掲示や、来館者の期待感を高める館内誘導案内を設置します。
外構や植栽には、県内各地の石材や三重にゆかりのある植物、学習に用いる植物などを配置することで、館内の展示とフィールドとをつなぐとともに、三重の自然と歴史・文化を考えるきっかけの場とします。
演出空間はストーリー性のあるものとし、博物館への期待感を高めるものとします。

■外構



❶ 情報掲示機能	歩行者等に博物館の存在を知らせ、現在の主な催しなどを紹介する情報掲示案内 場所：交差点の角など
❷ 館内への誘導機能	来館者に館内への期待感を高める情報を案内 場所：正面大階段周辺など
❸ 親しみやすい演出機能	敷地内各所に三重の魅力や楽しい博物館をイメージする演出を配置 場所：野外学習スペースや交流の広場内、1階ピロティなど



ミュージアムフィールドを紹介するマップ

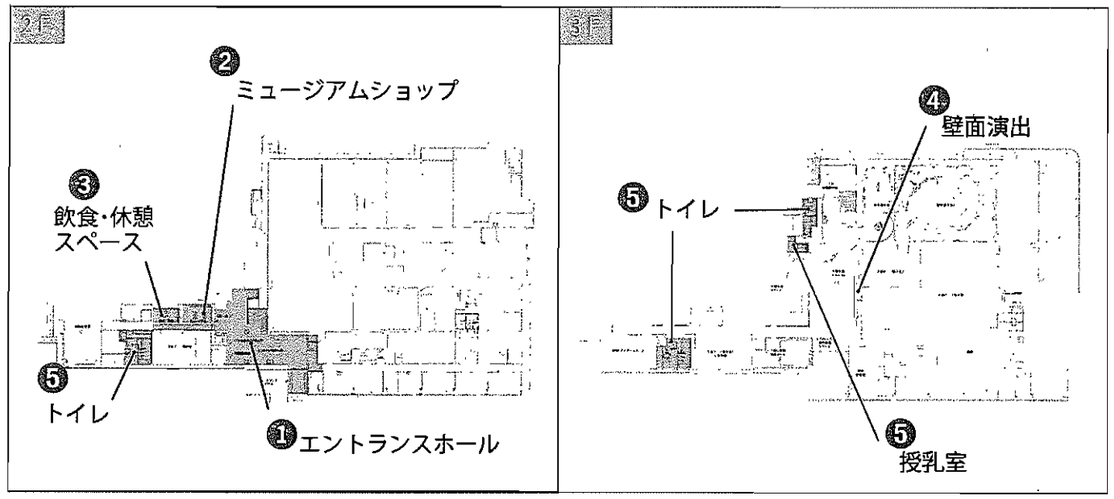
三重の里山で見られる動物のオブジェなど（オオサンショウウオ、タヌキなど）

■館内演出の考え方

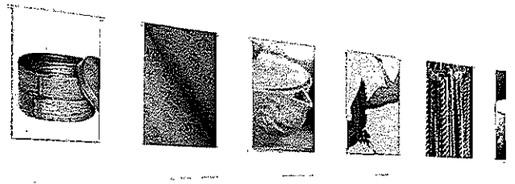
館内の各所に配置する三重の魅力と楽しさの演出

展示室だけでなく、交流創造エリアをはじめ、さまざまなところに三重の魅力を伝え、地域性を演出する県産材やデザインを積極的に活用します。あわせて、博物館らしさや楽しさ、意外性などを表現する演出や展示情報も各所に配置・紹介することで、気づきや展示資料への興味を呼び起こします。
サインなどを県民・利用者のみなさんと一緒につくる、開館前のイベントやワークショップなども実施します。

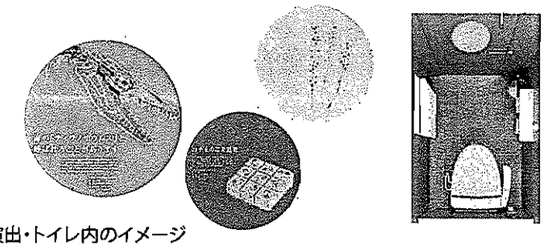
■館内



❶ エントランスホール（2F）	博物館の顔として、わくわく感・期待感を高めるような演出
❷ ミュージアムショップ（2F）	博物館の刊行物、自然・歴史探求のための道具類、オリジナル商品、土産物などを販売
❸ 飲食・休憩スペース（2F）	テーブルや椅子などにも三重の魅力と楽しさを演出 オオサンショウウオ飼育水槽も配置
❹ 壁面（垂壁、3F）	三重らしさをテーマにした、更新性の高いバナーなど
❺ トイレ・授乳室（2F・3F）	機能的になりがちなトイレや授乳室にも三重の魅力と楽しさを演出



学習交流スペースのバナーのイメージ



トイレの演出・トイレ内のイメージ

■里山の保全と活用

里山における人と自然のありかたを考える

「里山」は、人と関わりの強い身近な自然で、その生態系は人のくらしによって影響を受けやすいものです。「里山」は、人と自然の関わりの歴史と、これからのあるべき関係を具体的に教えてくれます。新博物館では、予定地の里山環境を県民・利用者のみなさんとともに、自然の恵みを体験できるスペースとして活用することをめざします。そして、人の活動に自然が応える野外展示「里山」を展開して、来館者のみなさんが、環境との関わり方を自分のこととして考えられる展示やプログラムを構成します。

新博物館の「里山」の考え方について

新博物館の考える野外展示の「里山」ゾーンは、予定地の潜在的な自然植生とその歴史性、人の生活と密着してバランスを保ってきた山林という特性があります。その特性を重視した上で、これまで維持してきた生態系サービスを保ち続けながら多様に活用することで、人が里山とともに生きる感覚を共有していく場所と考えています。
新博物館では、野外展示「里山」の活用を通して、「里山」が人の関わりによって常に移り変わることを体験でき、その景観と活用プログラムから、人が自然から持続して恵みを得て生きていくためには、自然といかに関われればよいかを考えるきっかけの場とします。

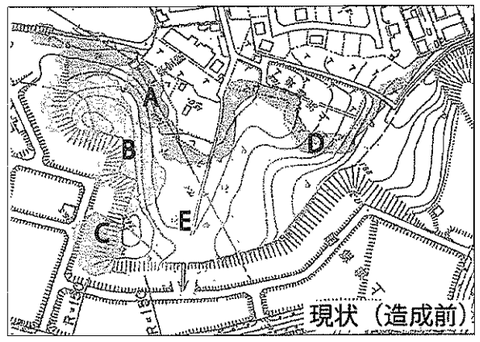
現状（造成前）

敷地のもつ歴史性

志登茂川南岸の丘陵地帯として、かつて人が生活の場として里山を利用した記憶や記録が残る自然環境。

敷地環境の現状（造成前）

里山に対する人の関わり方が希薄になったため、植物遷移が進み、景観が荒れ、里山としての機能を失っている。
林縁部は、照葉樹林（コジイ・カナメモチ群落）や落葉樹林（アベマキ・ネザサ群落）の良好な樹林が見られる一方で、中央の谷部から北側尾根線にかけてのエリアは、竹林（モウソウ竹群落）が優占し、その生息範囲を拡大して他樹種を枯死させ“竹藪化”しつつありました。



A. 落葉樹林　B. 照葉樹林　C. アカマツ林

D. 照葉樹林＋竹林　E. 竹林

活用プログラム（案）

里山の利用促進に向けた長期的な活動プログラムの構築と実行

開館に向けて
環境整備、情報収集調査

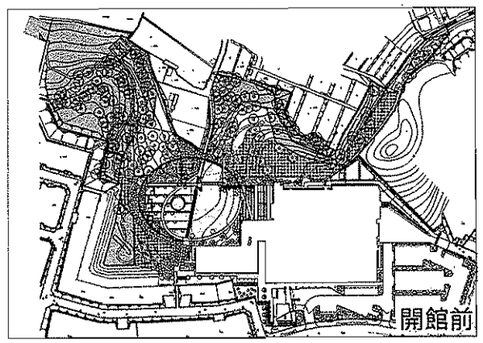
- タケノコ採集による竹の伐採
- 竹の伐採による生物群集構造の変遷を観察し、その効果を明らかにするための生物と物理環境の定期調査と観察会の開催
- 樹木プレートの設置

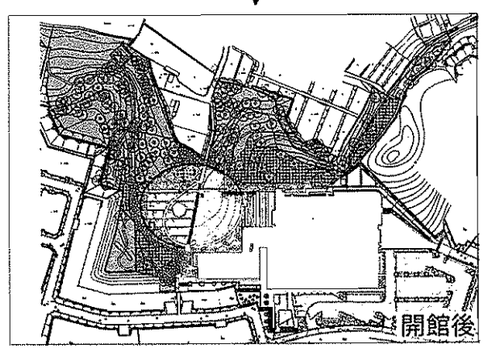
開館後
里山活用

- ほだ木の採集と椎茸栽培
- ドングリひろいとドングリパン作り
- 自然観察会の開催
- 「里山遊び隊」（仮称）の結成

継続的な活用
検証・評価

- 予定地の里山の人文・自然的な再評価





里山の保全
里山の再生
交流の広場と有用植物植栽スペース
駐車場などの植栽スペース

野外展示の活動イメージ

基本方針

「里山」を生かし、これからの人と自然の持続可能な関係を
県民・利用者のみなさんとともに創造する

TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

■野外展示

野外ならではの展示や活動を展開

敷地内の里山や交流の広場は、散策などでゆったりと過ごすことができる空間とします。また、館内の展示との関連や周辺の環境に配慮し、三重にゆかりのあるものや地域に由来するもの、学習に用いるものなどの樹種や石材を配置し、野外活動や環境保全活動を展開します。

里山

里山における人と自然の持続可能な関わりについて考える場

本来の里山環境を体感できる取組を展開します。
県民・利用者のみなさんとともに里山の保全活動を展開します。

- ●里山での自然観察とくらし体験
- ●子どもたちが楽しく自然に接することができる活動

交流の広場

さまざまな活動を展開する場

三重を特徴づける植物や岩石を配置し、紹介します。広々とした心地よい広場で休憩を楽しむほか、さまざまな博物館活動や季節のイベントなどにも活用できます。

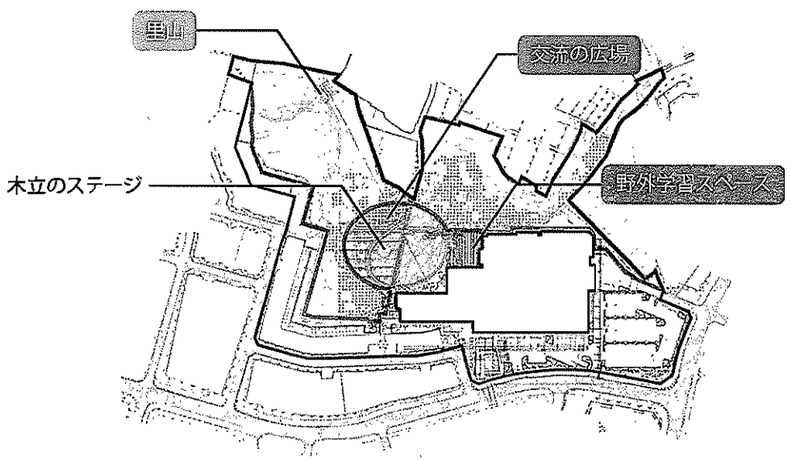
- ●薬用や素材として利用される有用植物や、三重にかかわる岩石や植物などを解説プレートやリーフレットで紹介
- ●「木立のステージ」を活用した季節のイベントを開催

野外学習スペース

楽しいオブジェを配置し、野外での活動を展開する場

建物に近接し、テントや水場を備える自然に馴染んだスペースとして、さまざまな野外展示やイベントを展開する場とします。

- ●親しみやすく楽しいオブジェなども配置し、さまざまな野外活動を展開



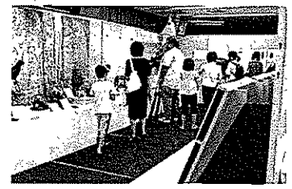
■アウトリーチ活動

博物館との出会いや連携の場を県内各地で展開

移動展示やフィールドワークなどのアウトリーチ活動を、県内各地で展開すると同時に、活動先との連携を積極的に展開することで、博物館の活動を館外に広げます。

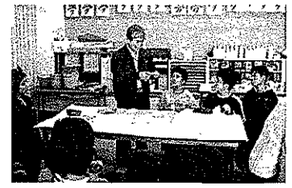
移動展示

館内での基本展示や自主企画展示・トピック展示などを、県内各地でも行うことにより、博物館への興味・関心を深めます。



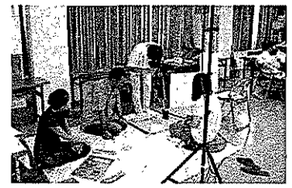
学校連携

学校カリキュラムに沿った貸し出し用資料や、活用の手引きを作成するとともに、実践事例を蓄積します。また、児童・生徒や教員とともに調査研究活動を行い、その成果を地域での展示活動等で発信します。



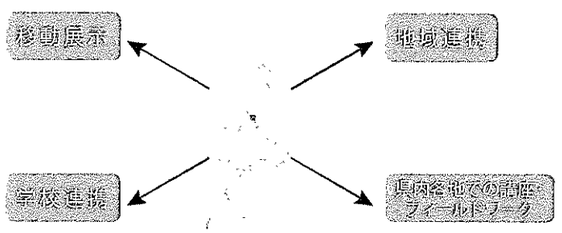
地域連携

地域の博物館との連携展や諸団体との地域共同調査研究、研究発表、展示などの発信活動を地域で展開します。



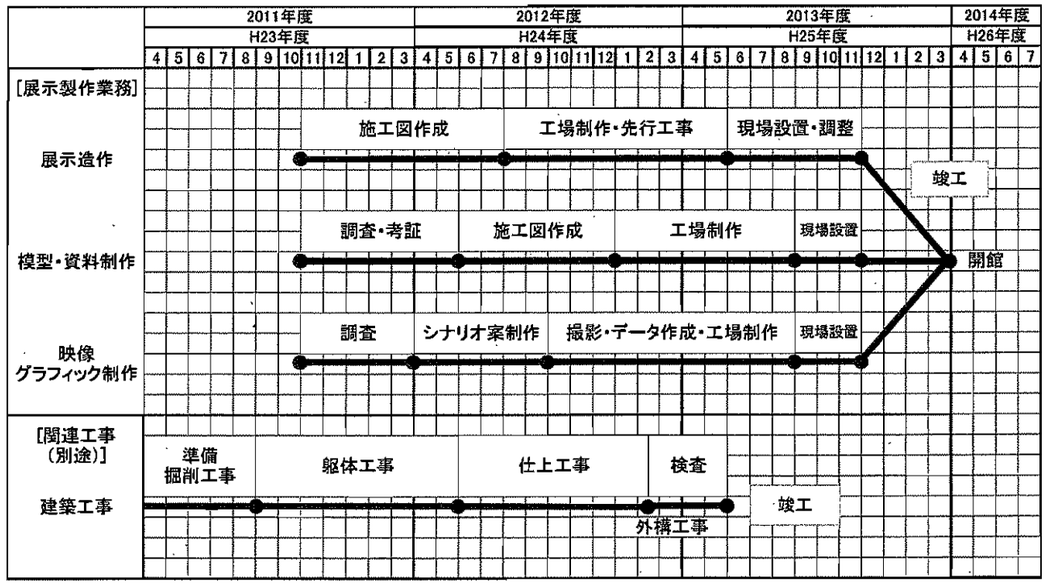
県内各地でのフィールドワーク

館内では行うことができない講座や自然観察などを県内各地で行い、地域の魅力の再発見につなげます。



TOTAL MEDIA DEVELOPMENT INSTITUTE CO.,LTD.

工程計画



制作・施工費 概算

Ⅰ. 直接工事費			< 1,078,435,000 >
1. エントランスエリア			(17,501,000)
エントランスホール／飲食・休憩スペース／ミュージアムショップ			
造作工事	1式		494,000
什器・備品	1式		5,663,000
映像音響機器	1式		711,000
模型・造形	1式		7,494,000
サイン・グラフィック	1式		2,623,000
映像音響ソフト	1式		516,000
2. 交流創造エリア			(277,871,000)
学習交流スペース／書庫／三重の実物図鑑ルーム／資料閲覧室／県民活動室			
実験実習室／研修・ガイダンスルーム／こども体験展示室			
造作工事	1式		23,228,000
什器・備品	1式		141,470,000
電気・照明	1式		7,536,000
映像音響機器	1式		16,801,000
模型・造形・レプリカ	1式		74,613,000
サイン・グラフィック	1式		8,643,000
映像音響ソフト	1式		1,416,000
教材	1式		4,164,000
3. 展示エリア(テーマ展示室)			(160,127,000)
交流テーマ展示室1／交流テーマ展示室2／企画テーマ展示室			
造作工事	1式		13,064,000
什器・備品	1式		143,067,000
電気・照明	1式		3,996,000
4. 展示エリア(基本展示)			(516,360,000)
造作工事	1式		41,277,000
什器・備品	1式		36,200,000
電気・照明	1式		15,920,000
映像音響機器	1式		24,740,000
模型・造形	1式		256,910,000
サイン・グラフィック	1式		44,590,000
映像音響ソフト	1式		96,590,000
教材	1式		133,000
5. 野外展示・共用部展示演出・アウトリーチ			(106,576,000)
造作工事	1式		14,948,000
什器・備品	1式		13,980,000
電気・照明	1式		666,000
映像・音響機器	1式		22,610,000
模型・造形	1式		13,989,000
サイン・グラフィック	1式		10,740,000
映像音響ソフト	1式		20,900,000
教材	1式		8,743,000
Ⅱ. 管理費等			< 216,803,095 >
1. 共通仮設費			(22,843,095)
2. 制作管理費			(88,100,000)
3. 一般管理費			(105,860,000)
合　計(Ⅰ＋Ⅱ)			1,295,238,095
展示制作費 合計(税込)			《 1,360,000,000 》